

調査結果の分析

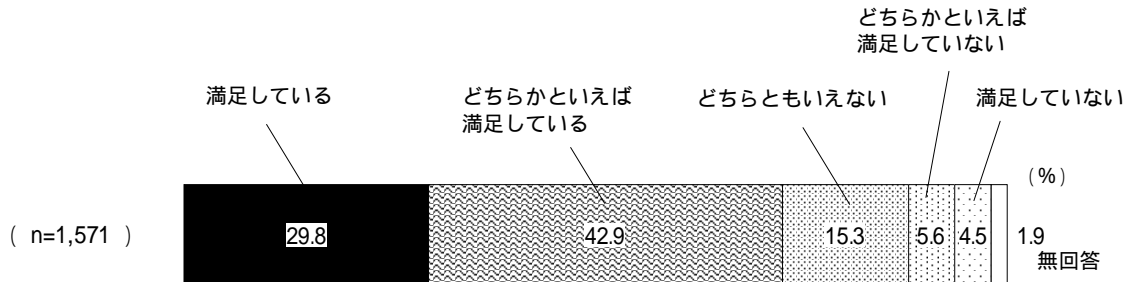
第1部 就学前儿童

第1章 子育てについての考え

1-1 子育て中の現在の生活についての満足度

Q1-1 あなたは、子どもを育てている現在の生活に、満足していますか。(は1つ)

図1-1

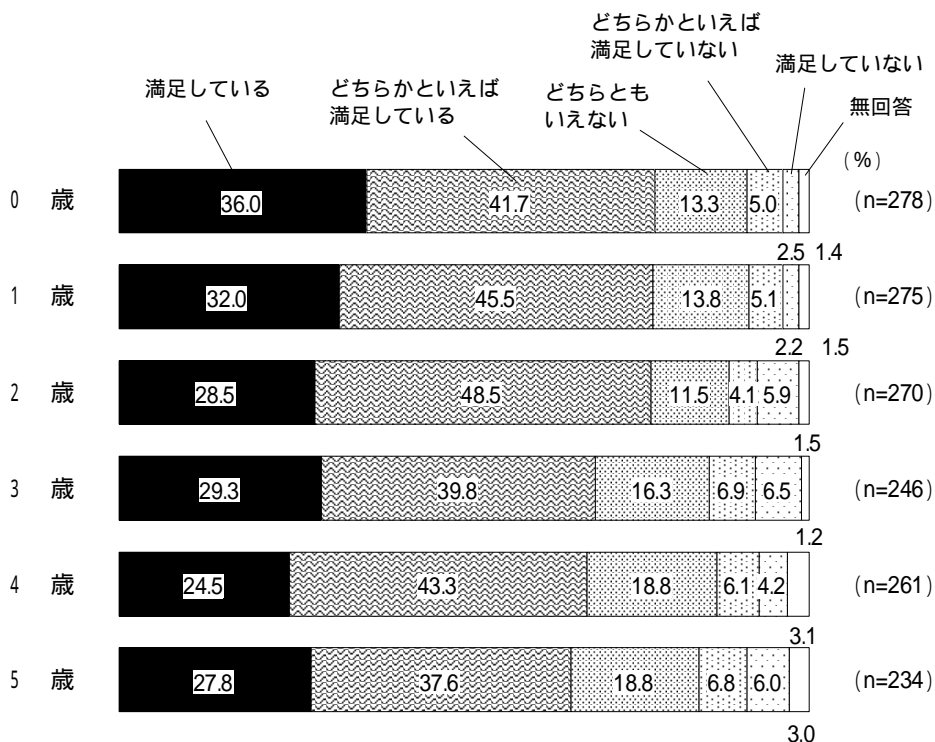


子どもを育てている現在の生活に対して、「満足している」が29.8%で、これに「どちらかといえば満足している」(42.9%)を合わせた満足度は72.7%を占めている。一方、「どちらかといえば満足していない」(5.6%)と「満足していない」(4.5%)を合わせた不満度は10.1%となっている。

子どもの年齢別で見ると、0歳では、「満足している」との強い満足感を持っている人が36.0%と、他の年齢に比べて多くなっている。

なお、子どもの年齢が上がるにつれて、満足度が下がっている

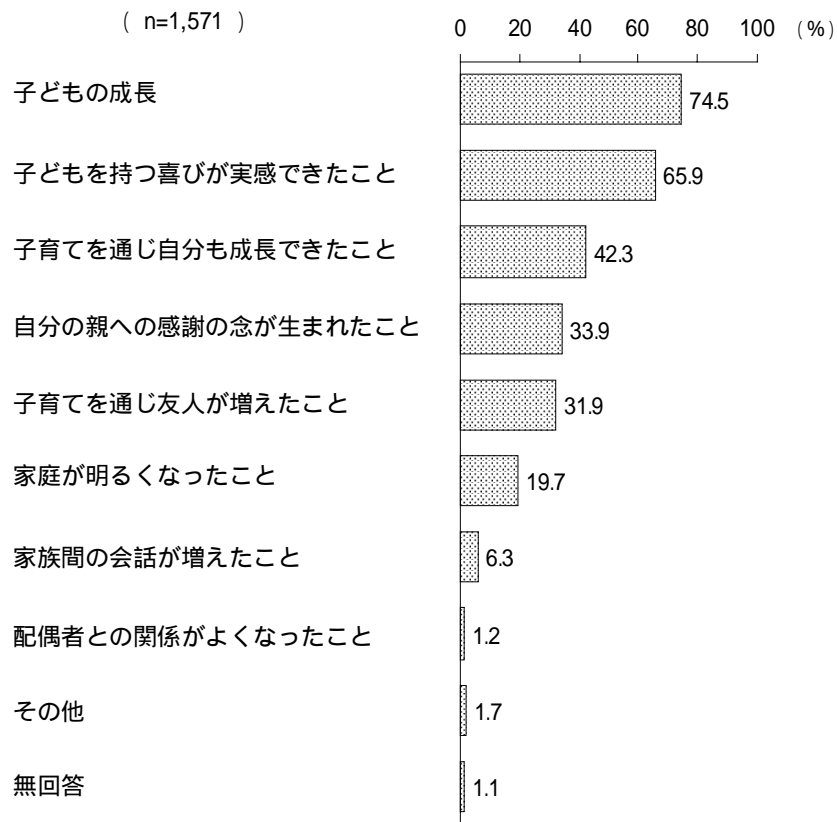
図1-2 子どもの年齢別 子育て中の現在の生活についての満足度



1 - 2 子育てをしてよかったこと、嬉しかったこと

Q 1 - 2 子育てをしてよかったこと、嬉しかったことは何ですか。(は3つまで)

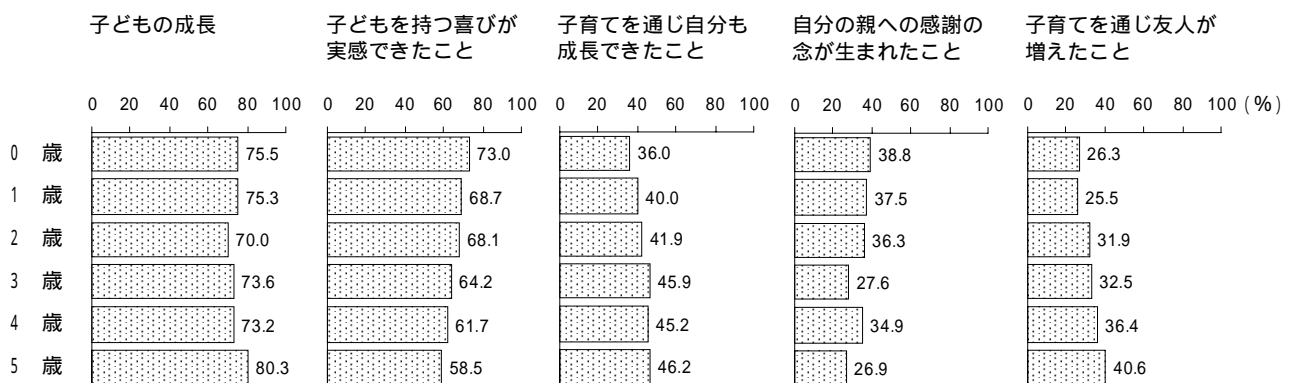
図 1 - 3



子育てをしてよかったことや嬉しかったこととしては、「子どもの成長」が74.5%で最も多く、これに「子どもを持つ喜びが実感できたこと」(65.9%)が次いでいる。また、「子どもを通じ自分も成長できたこと」(42.3%)も多くなっている。

子どもの年齢別でみると、0歳～2歳では、「子どもを持つ喜びが実感できたこと」が7割前後を占めて多くなっている。また、子どもの年齢が高くなるにつれて、「子育てを通じ友人が増えたこと」が微増する傾向にあり、5歳では40.6%を占めている。

図 1 - 4 子どもの年齢別 子育てをしてよかったこと、嬉しかったこと(上位5位)

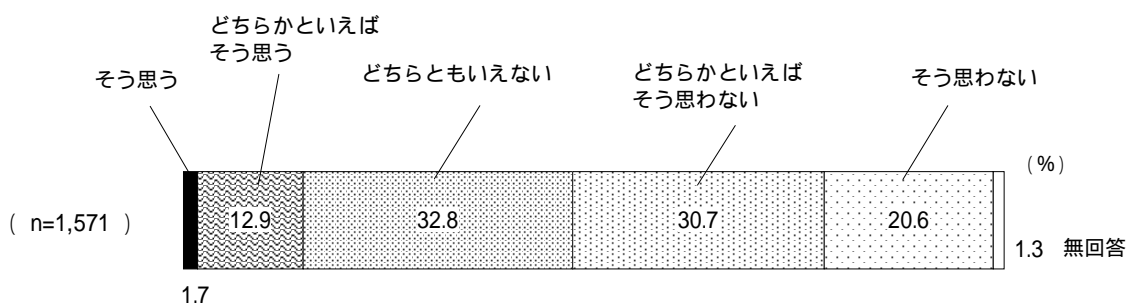


1 - 3 「子どもを育てること」への社会の評価

Q 1 - 3 「子どもを育てること」を、今の社会は十分に評価していると思いますか。

(は1つ)

図 1 - 5



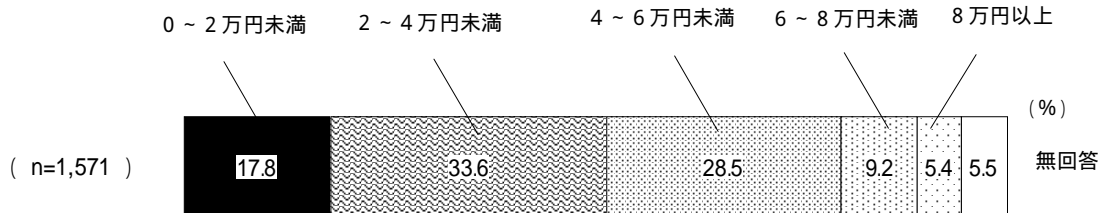
『子どもを育てること』を社会が評価しているかについては、「そう思う」が1.7%で、これに「どちらかといえばそう思う」(12.9%)を合すると 評価していると思う は14.6%である。

これに対して、「どちらかといえばそう思わない」(30.7%)と「そう思わない」(20.6%)を合せた 評価していないと思う は51.3%を占めて、 評価していると思う を大きく上回っている。

1 - 4 子育てにかかる1ヶ月の費用

Q2 該当のお子さんの子育てにかかる費用は1ヶ月いくら位ですか。 中におおよその金額を記入してください。

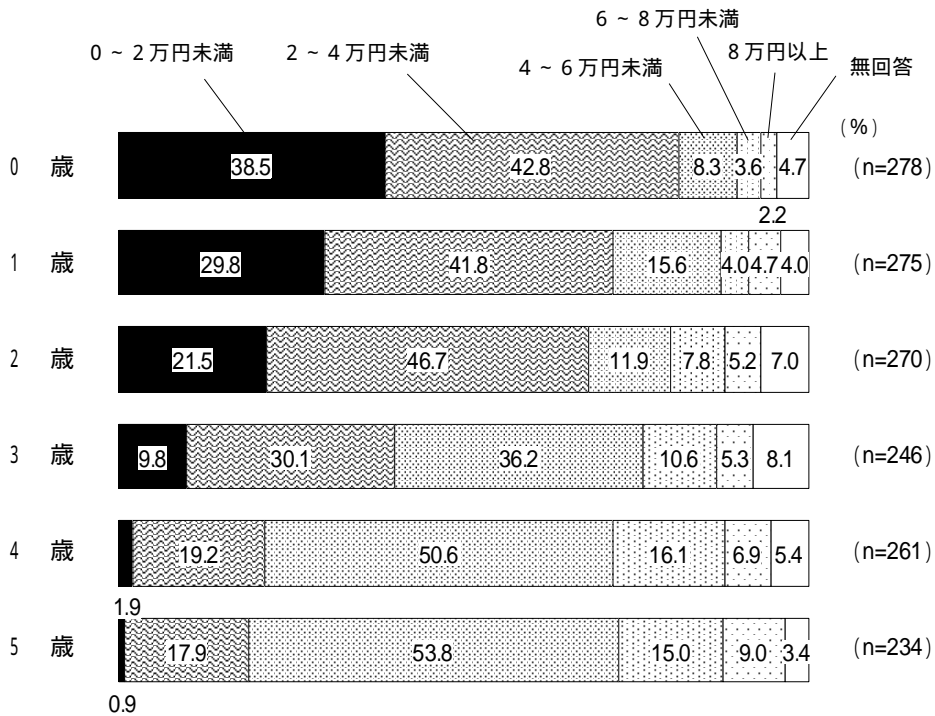
図1 - 6



お子さんの子育てにかかる費用としては、「2万～4万円未満」(33.6%)と「4～6万円未満」(28.5%)の2項目に集中している。また、この結果を平均すると「3.6万円」となる。

子どもの年齢別でみると、0歳では、「0～2万円未満」(38.5%)、「2～4万円未満」(42.8%)が多くなっているが、子どもの年齢が高くなるにつれて、子どもにかかる費用は増加し、4歳・5歳になると、「4～6万円未満」が、それぞれ50.6%・53.8%と半数を超えている。

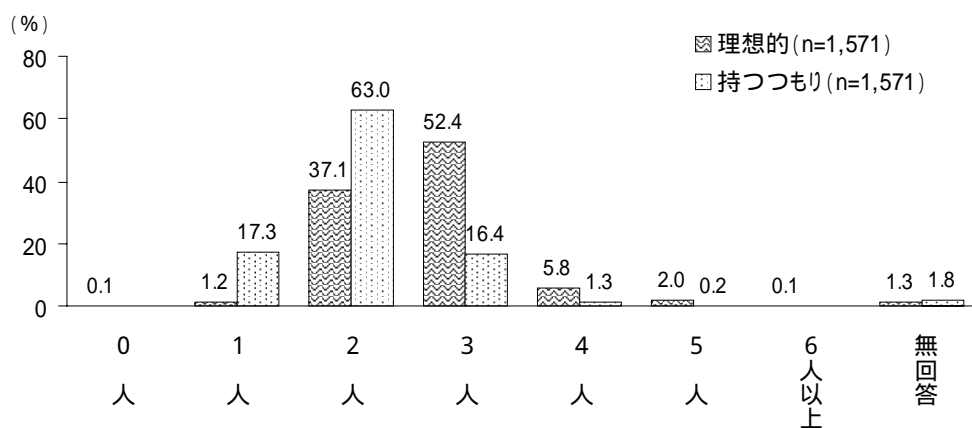
図1 - 7 子どもの年齢別 子育てにかかる1ヶ月の費用



1 - 5 理想と持つつもりの子どもの人数

Q 3 - 1 あなたにとって理想的な子どもの人数は何人ですか。また、あなたは全部で何人の子どもを持つつもりですか。
 (は「理想的な子どもの人数」、「持つつもりの子どもの人数」それぞれ1つずつ)

図 1 - 8



理想的な子どもの数は「3人」が52.4%で最も多く、これに「2人」(37.1%)が次いでいる。一方、持つつもり的人数としては「2人」が63.0%と6割を超えている。一方、「3人」は16.4%に留まっており、理想と現実のギャップが明確にあらわれている。

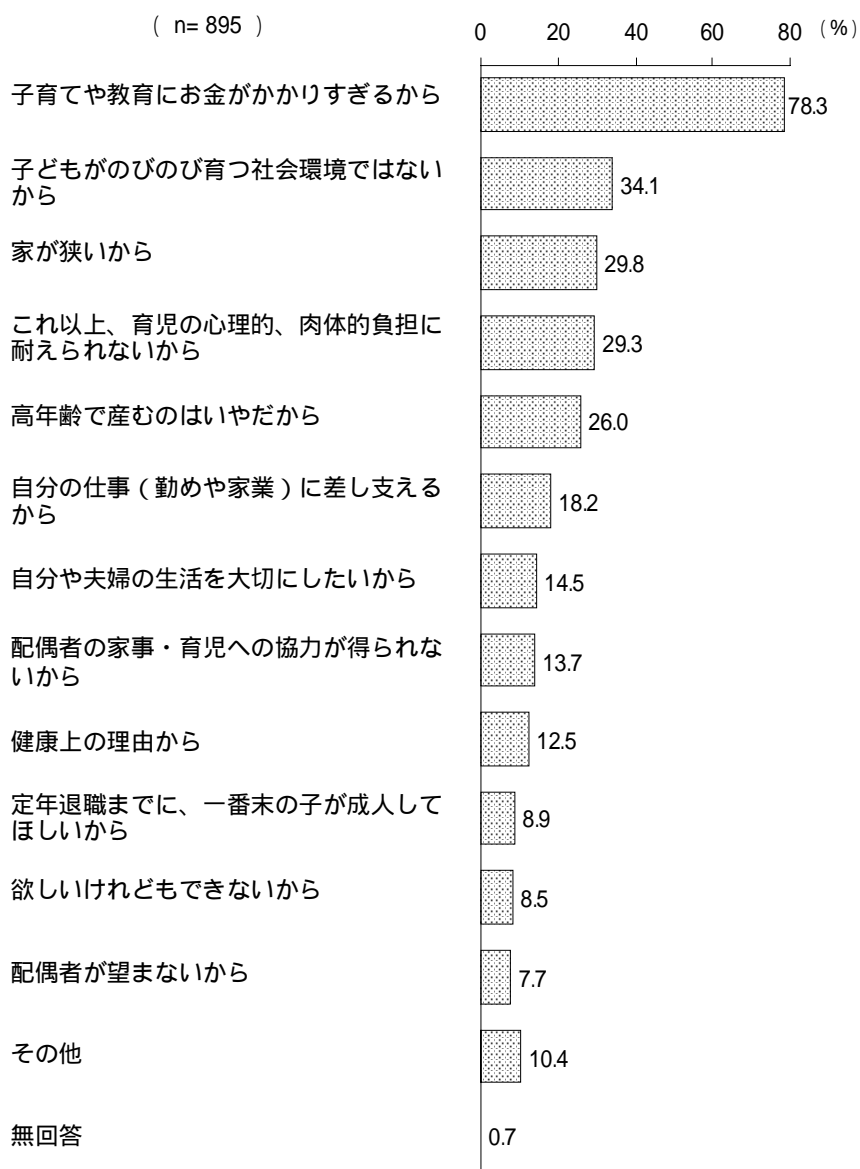
1 - 6 子どもが理想より少ない理由

【次のQ3 - 2は、Q3 - 1で「持つつもりの子どもの人数」が、「理想的な子どもの人数」より少ない方におたずねします】

Q3 - 2 持つつもりの子どもの人数が、理想とする子どもの人数より少ないのはどうしてですか。次のうち、あてはまる理由すべてに をつけ、最大の理由には をつけてください。

全ての理由

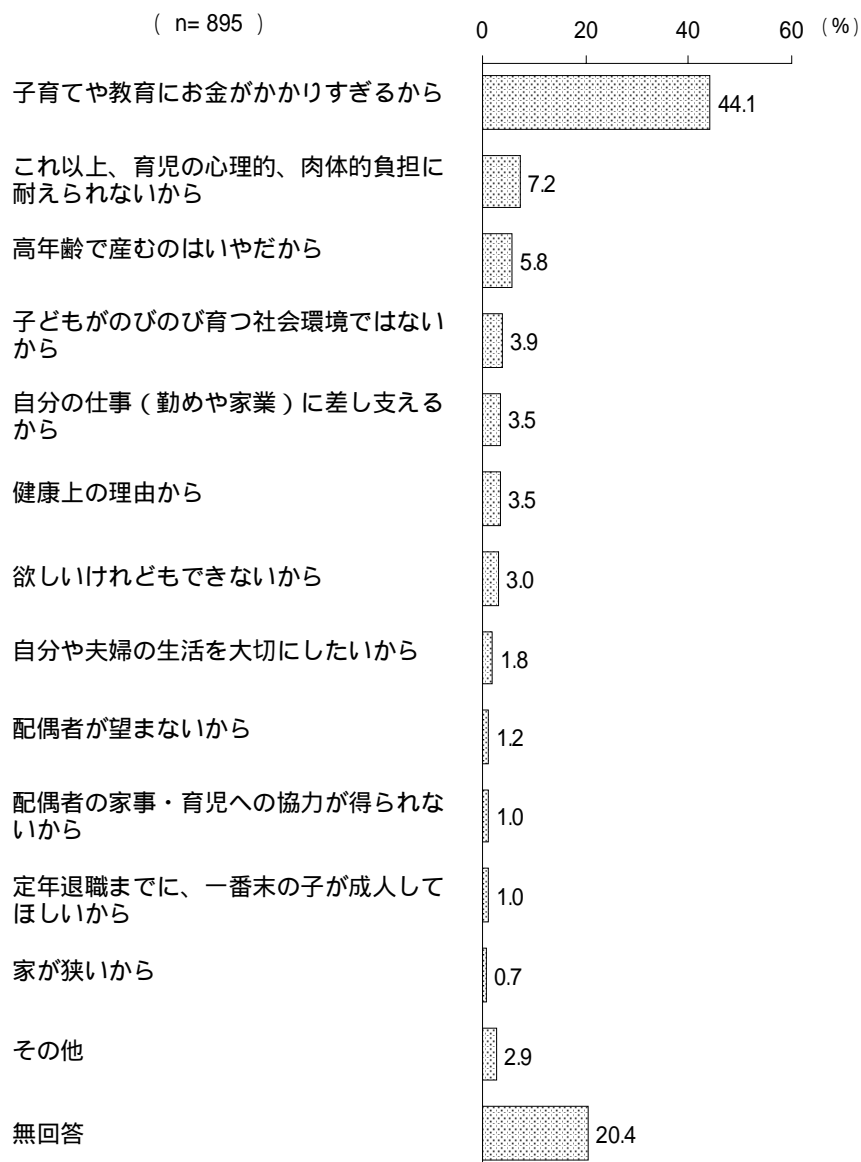
図 1 - 9



持つつもりの子どもの数が理想より少ない人に、その理由をきくと、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が78.3%で最も多く、以下「子どもがのびのび育つ社会環境ではないから」（34.1%）「家が狭いから」（29.8%）「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」（29.3%）の順で続いている。

最大の理由

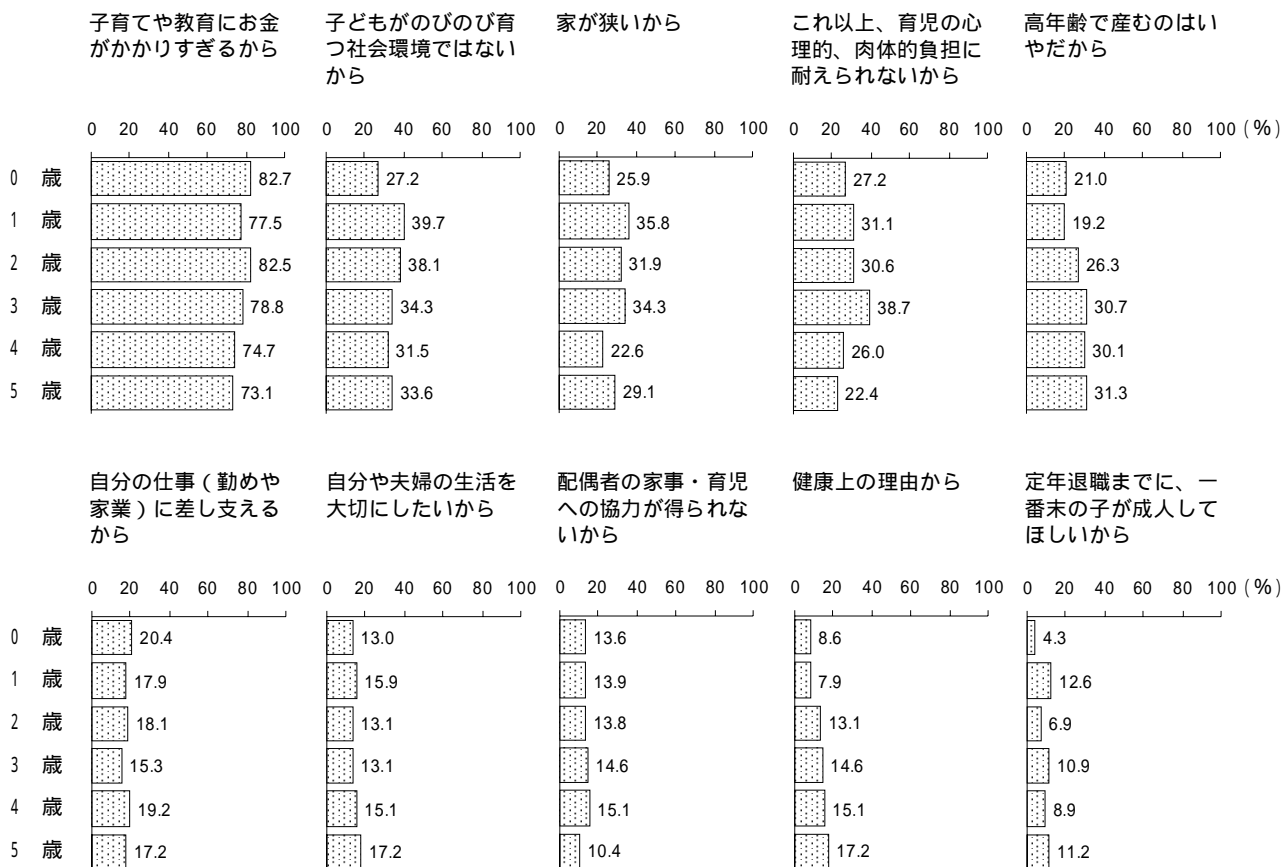
図 1 - 10



次に、その最大の理由をきくと、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(44.1%)が突出して多くなっている。この他の理由は各項目に分散しているが、その中では「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」(7.2%)と「高年齢で産むのはいやだから」(5.8%)が多くなっている。

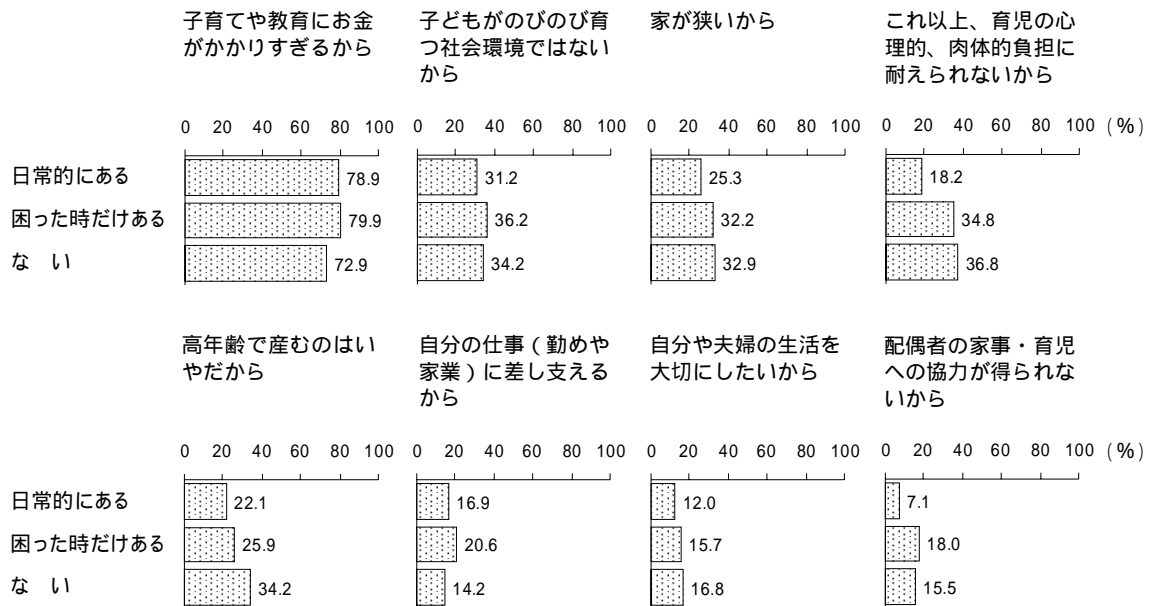
全ての理由を子どもの年齢別で見ると、2歳以上になると、「高年齢で産むのはいやだから」と「健康上の理由から」が微増する傾向がある。

図1 - 11 子どもの年齢別 子どもが理想より少ない理由（上位10位）



さらに、全ての理由を祖父母や親族による子育ての支えの有無別でみると、子育ての支えがない 困った時だけある という人では、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」と「配偶者の家事・育児への協力が得られないから」という理由が、子育ての支えがある という人より多くなっている。

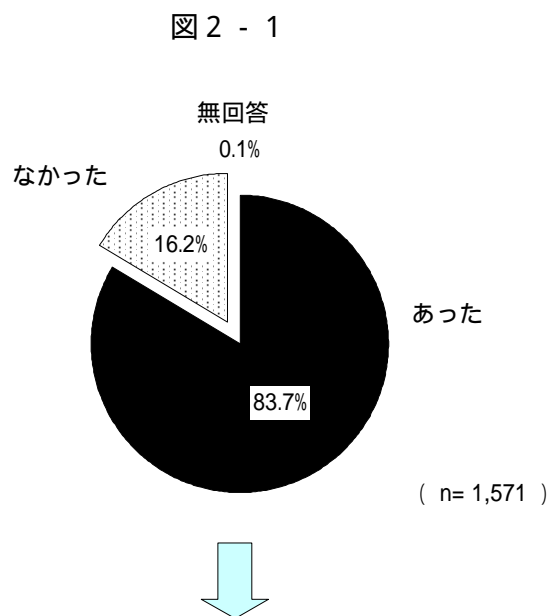
図 1 - 12 子育ての支えの有無別 子どもが理想より少ない理由（上位 8 位）



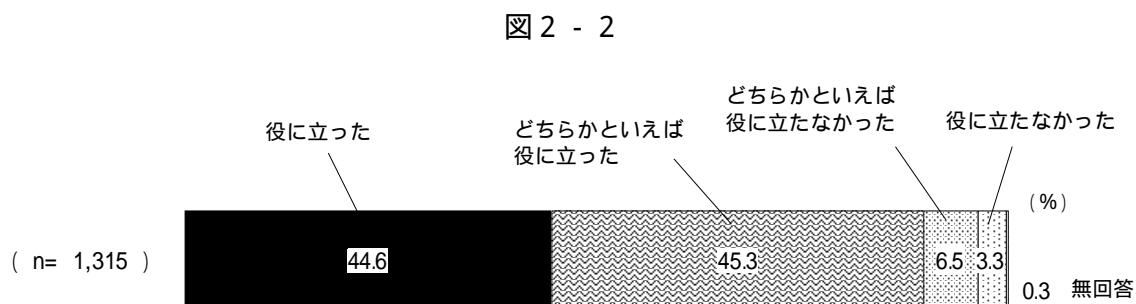
第2章 妊娠・出産・育児について

2 - 1 母親・父親教室の参加の有無とその効果

Q 4 - 1 お子さん（該当のお子さんに限りません）が産まれる前に、母親教室・父親教室などに参加したことがありましたか。（ は1つ）



続いて、母親教室・父親教室などに参加したことがあった方におたずねします。「母親教室・父親教室などに参加したこと」が役に立ちましたか。（ は1つ）



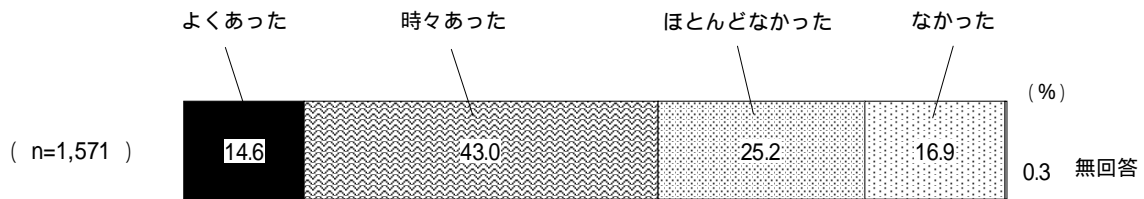
出産前の母親教室・父親教室への参加状況を見ると、参加したことが「あった」人が83.7%と8割を超えている。

その参加者のうち、「役に立った」という人は44.6%で、これに「どちらかといえば役に立った」（45.3%）を合わせた 肯定的評価 は89.9%とほぼ9割を占めている。一方、「どちらかといえば役に立たなかった」（6.5%）と「役に立たなかった」（3.3%）を合せた 否定的評価 は9.8%と1割に満たなかった。

2 - 2 妊娠中、出産後に母親が、精神的に不安定になったこと

Q 4 - 2 お子さん（該当のお子さんに限りません）を妊娠中、母親が、精神的に不安定になったことはありますか。（ は1つ）

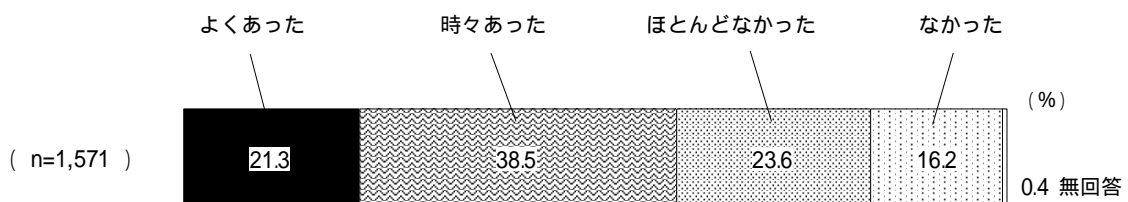
図 2 - 3



続いておたずねします。

お子さん（該当のお子さんに限りません）の出産後1ヶ月くらいの間、母親が精神的に不安定になったことがありますか。（ は1つ）

図 2 - 4

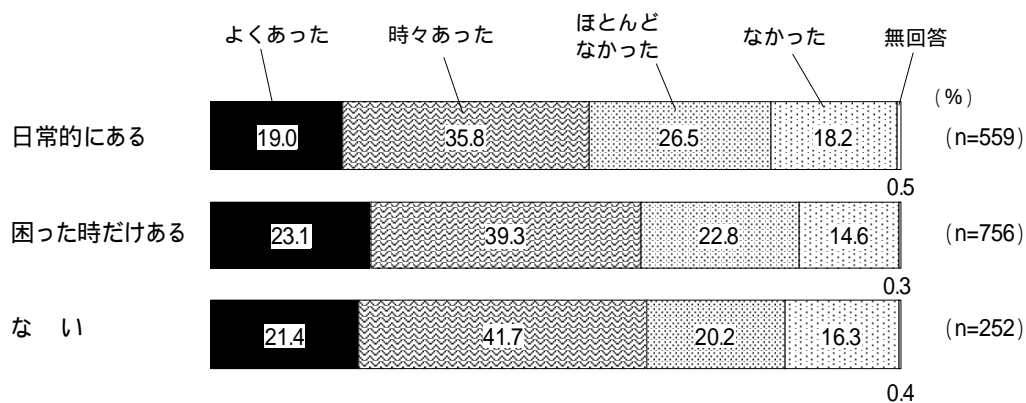


妊娠中に母親が精神的に不安定になったことが「よくあった」という人は14.6%で、これに「時々あった」(43.0%)を合わせた 経験あり は57.6%と6割近くを占めている。一方、「ほとんどなかった」は25.2%、「なかった」は16.9%となっている。

また、出産後1ヶ月くらいの間、母親が精神的に不安定になったことが「よくあった」という人は21.3%で、これに「時々あった」(38.5%)を合わせた 経験あり は59.8%と、6割近くを占めているのは妊娠中とほぼ同じであるが、「よくあった」の方が多くなっている。

出産後1ヶ月くらいの中に母親が精神的に不安定になったことがあるかを、祖父母や親族による子育ての支えの有無別でみると、子育ての支えが「ない」「困った時だけある」という人は、子育ての支えが「ある」という人に比べて、不安定になった《経験あり》が多くなっている。

図2-5 子育ての支えの有無別 出産後に母親が、精神的に不安定になったこと

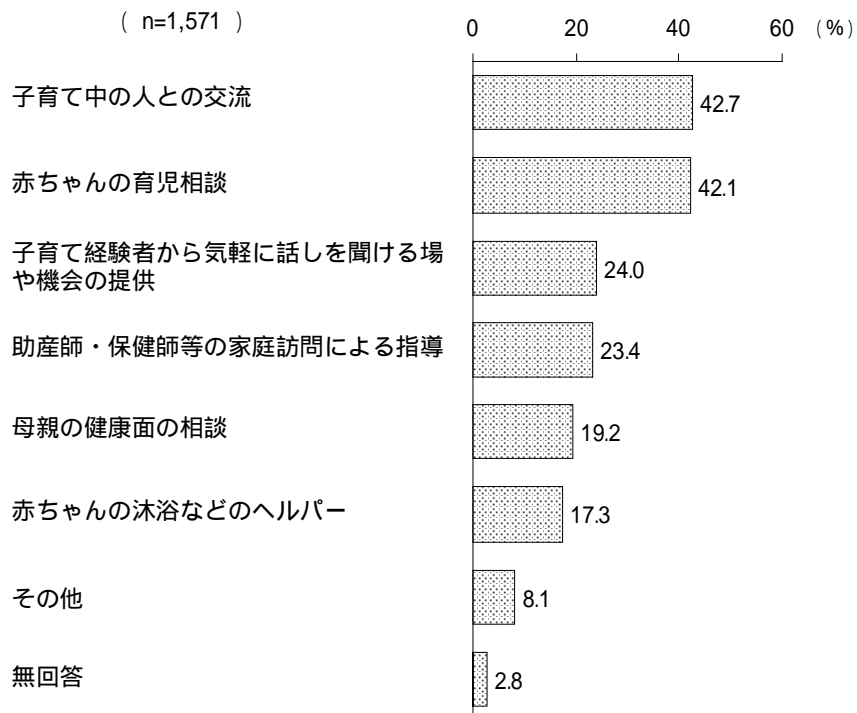


2 - 3 妊娠中や出産後に必要なサービス

Q 4 - 3 妊娠中や出産後のサポートとして、どのようなサービスが重要だと思いますか。

(は2つまで)

図 2 - 6

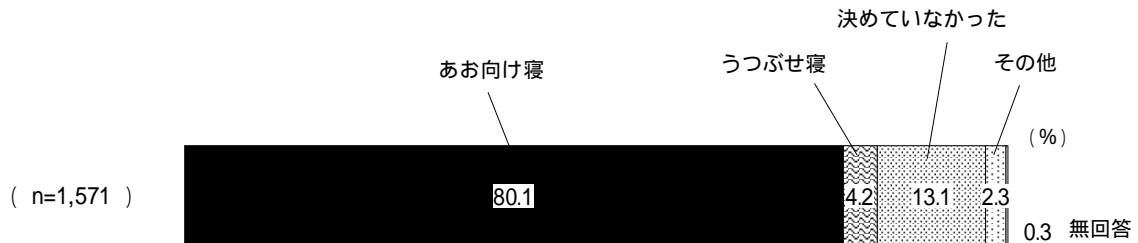


妊娠中や出産後のサポートとして重要なサービスとしては、「子育て中の人との交流」(42.7%)と「赤ちゃんの育児相談」(42.1%)が、いずれも4割を超えて、特に多くなっている。また、「子育て経験者から気軽に話しをきける場や機会の提供」(24.0%)と「助産師・保健師等の家庭訪問による指導」(23.4%)を重視する人もかなり多くなっている。

2 - 4 赤ちゃんの時の寝かせ方

Q 4 - 4 該当のお子さんが赤ちゃんの時、主な寝かせ方はどうでしたか。(は1つ)

図 2 - 7



子どもが赤ん坊のときの寝かせ方としては、「あお向け寝」が80.1%と圧倒的に多くなっている。一方、「うつぶせ寝」は4.2%である。

また、「決めていなかった」という人も13.1%と1割を超えている。

2 - 5 朝食の摂取状況

Q 4 - 5 該当のお子さんは、毎日朝食を食べていますか。(は1つ)

図 2 - 8



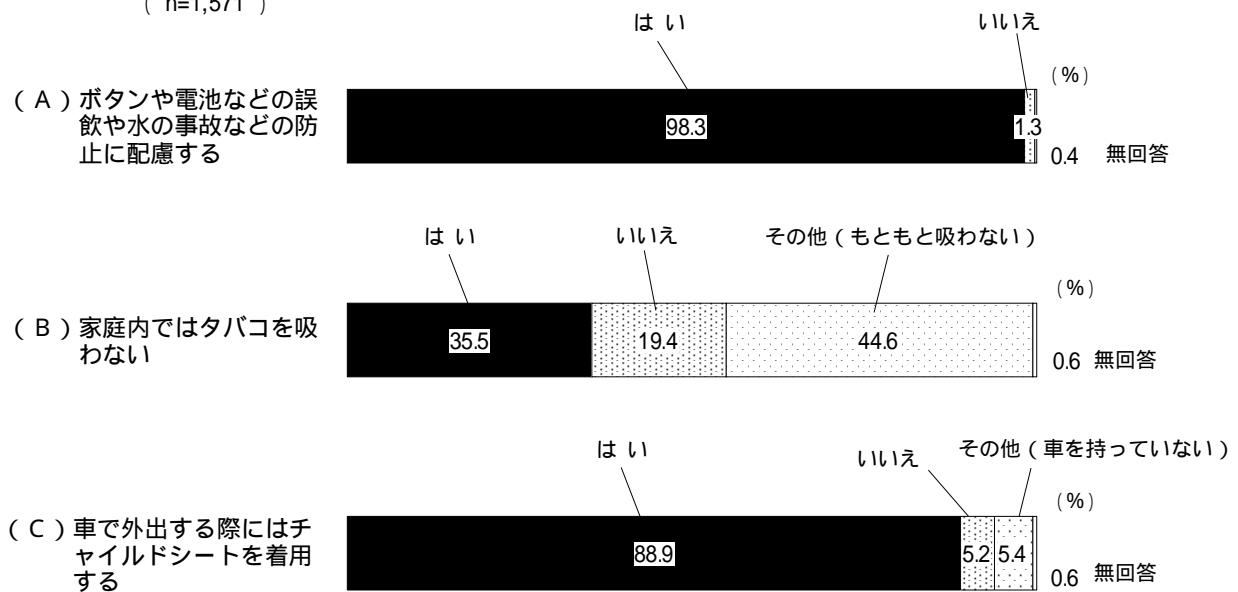
朝食の摂取状況を見ると、「毎日食べている」が93.6%と圧倒的に多くなっている。その一方、「週4日～6日は食べている」は4.1%、「食べる日は週3日以下」という人も1.7%いる。

2 - 6 事故防止や健康のための対策の実施状況

Q 4 - 6 次の (A) ~ (C) はどれも事故防止や健康のための対策ですが、該当のお子さんが赤ちゃんのときに、意識して行っていた、または現在行っていることを、それぞれ、「1. はい」、「2. いいえ」、または「3. その他」の中からお答えください。

図 2 - 9

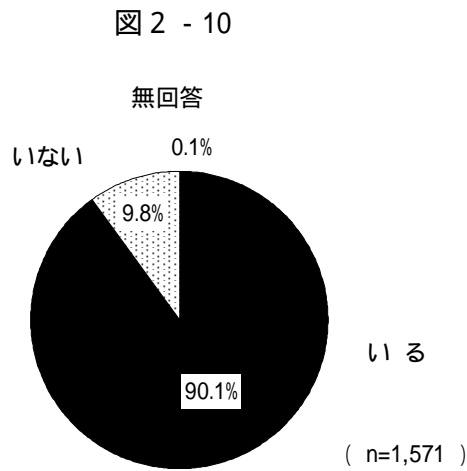
(n=1,571)



子どもが赤ん坊のとき、事故防止や健康のための対策などを意識して行っていたか聞いたところ、ボタンや電池などの誤飲や水の事故などの防止に配慮する と 車で外出する際にはチャイルドシートを着用する は、「はい」がそれぞれ98.3%・88.9%と多くの人が行っている。一方、家庭内ではタバコを吸わない は、「はい」が35.5%となっている。

2 - 7 かかりつけ医の有無

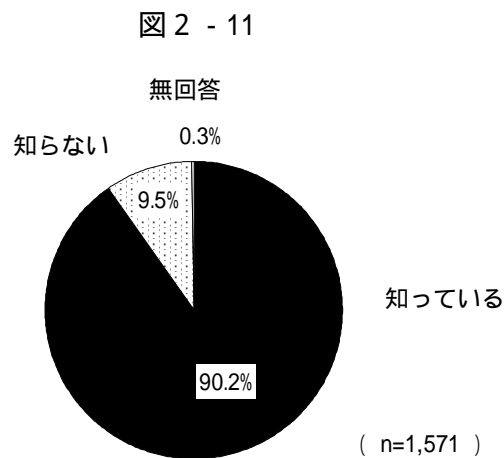
Q 5 - 1 該当のお子さんのかかりつけの医者がいますか。(は1つ)



子どもにかかりつけの医者が「いる」という家庭は90.1%を占めている。

2 - 8 休日や夜間に子どもが受診できる医療機関

Q 5 - 2 休日や夜間にお子さん(該当のお子さんに限りません)が病気になったときに受診できる医療機関を知っていますか。(は1つ)

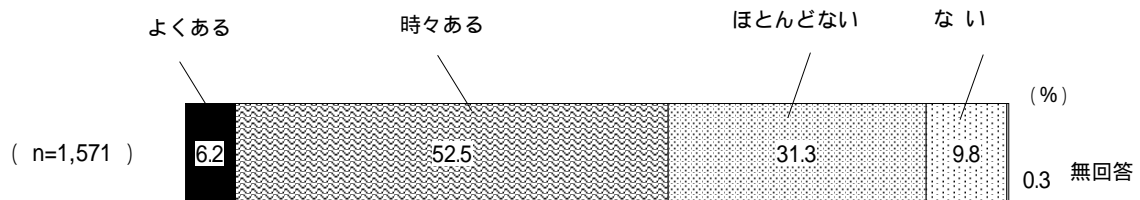


休日や夜間に受診できる医療機関を「知っている」という人は90.2%を占めている。

2 - 9 子育てでどうしたらいいかわからなくなること

Q 6 - 1 子育てでどうしていいかわからなくなることがありますか。(は1つ)

図 2 - 12



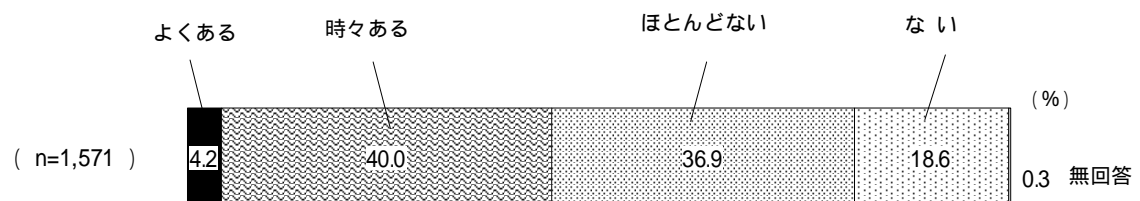
子育てをしていてどうしたらよいかわからなくなるときが「よくある」という人は6.2%で、これに「時々ある」(52.5%)を合せた 経験あり は58.7%を占めている。

一方、「ほとんどない」は31.3%、「ない」は9.8%となっている。

2 - 10 子どもの世話をしたくないとき

Q 6 - 2 やる気がおこらず、お子さん(該当のお子さんに限りません)の世話をしたくないときがありますか。(は1つ)

図 2 - 13



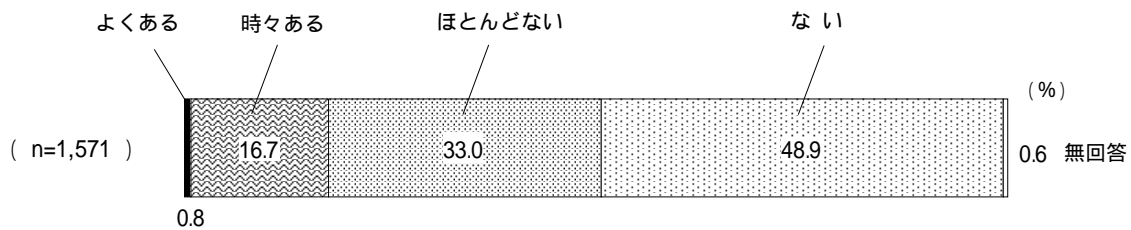
やる気がおこらず、子どもの世話をしたくないときが「よくある」という人は4.2%で、これに「時々ある」(40.0%)を合せた 経験あり は44.2%を占めている。

一方、「ほとんどない」は36.9%、「ない」は18.6%となっている。

2 - 11 子どもの虐待について

Q 6 - 3 自分は、子どもを虐待していると思うことがありますか。(は1つ)

図 2 - 14

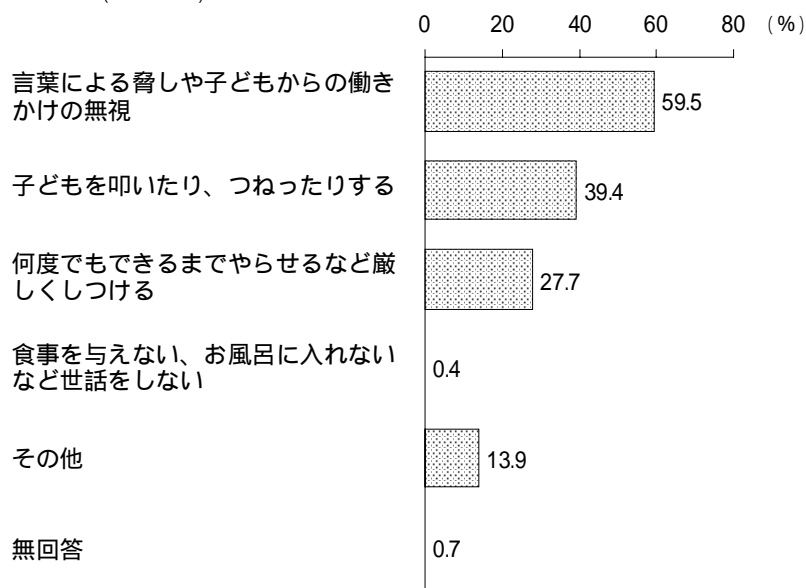


【次のQ 6 - 4は、Q 6 - 3で「1 . よくある」、「2 . 時々ある」と答えた方におたずねします】

Q 6 - 4 子どもを虐待していると思うのは、どのような時ですか。(は2つまで)

図 2 - 15

(n=274)

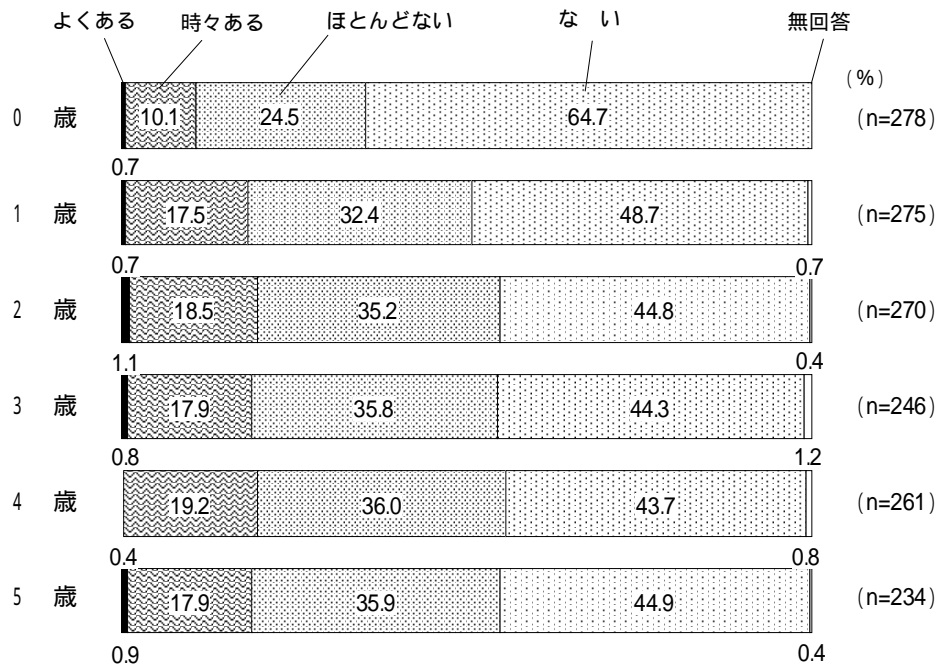


自分が子どもを虐待していると思うことが「よくある」という人は0.8%で、これに「時々ある」(16.7%)を合せた ある は17.5%を占めている。一方、「ほとんどない」は33.0%、「ない」は48.9%となっている。

さらに、ある という人(全体の17.5%)に、そう思うのはどのような時か聞いたところ、「言葉による脅しや子どもからの働きかけの無視」が59.5%と最も多く、以下「子どもを叩いたり、つねったりする」(39.4%)、「何度でもできるまでやらせるなど厳しくしつける」(27.7%)の順で続いている。

自分が子どもを虐待していると思うことの有無を子どもの年齢別でみると、あるは、0歳では低いものの、1歳以上ではいずれの年齢でも2割程度となっている。

図2 - 16 子どもの年齢別 自分が子どもを虐待していると思う時の有無

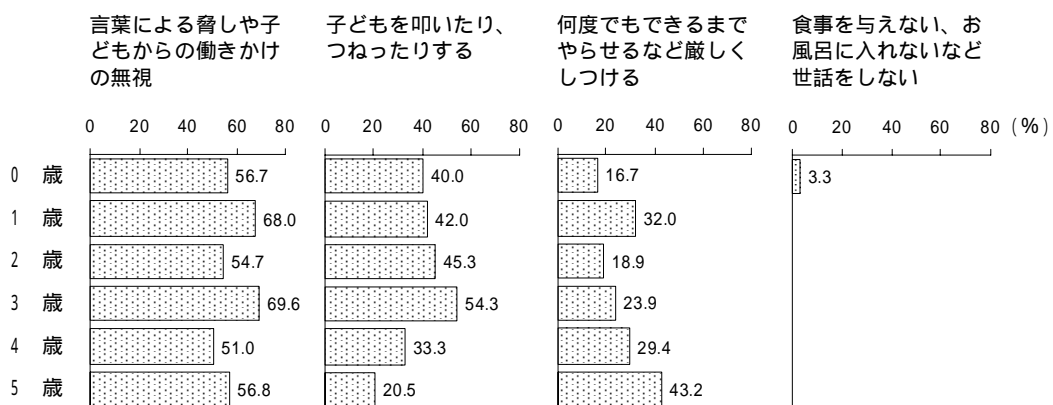


子どもを虐待していると思う状況を子どもの年齢別でみると、「子どもを叩いたり、つねったりする」が、0歳～3歳では40%を超え、特に3歳では54.3%と過半数を占めている。

また、「何度でもできるまでやらせるなど厳しくしつける」については5歳で43.2%と、他の年代に比べ、際立って多くなっている。

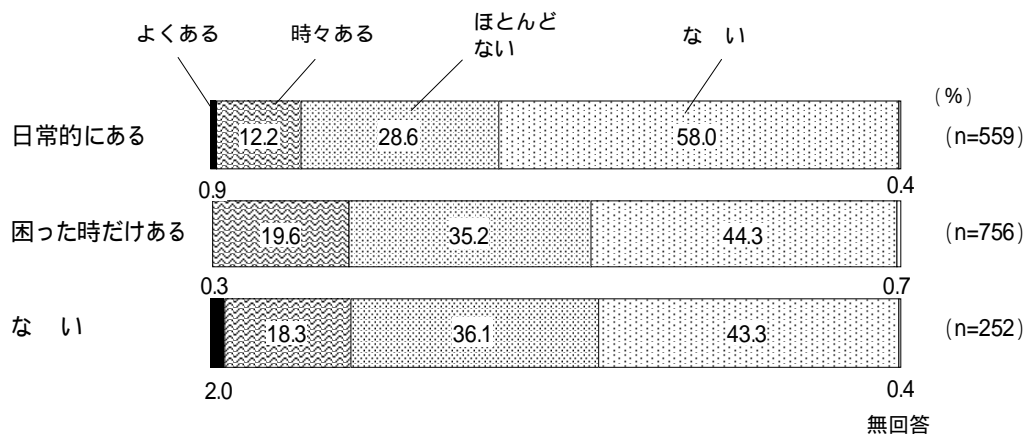
なお、「言葉による脅しや子どもからの働きかけの無視」は、全ての年齢で過半数を占めている。

図2 - 17 子どもの年齢別 子どもを虐待していると思う状況



さらに、自分が子どもを虐待していると思うことの有無を祖父母や親族による子育ての支えの有無別でみると、子育ての支えが ない 困った時だけある という人では、子育ての支えが ある という人に比べて、虐待していると思うことが多くなっている。

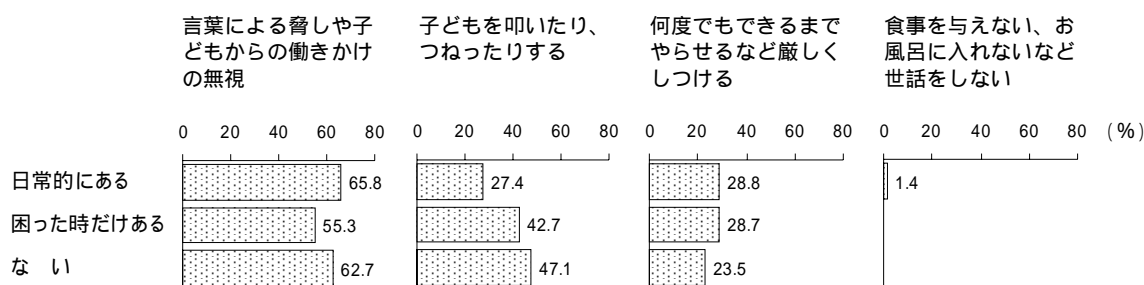
図2 - 18 子育ての支えの有無別 自分が子どもを虐待していると思う時の有無



そして、子どもを虐待していると思う状況を祖父母や親族による子育ての支えの有無別でみると、子育ての支えが ない 困った時だけある という人では、「子どもを叩いたり、つねったりする」が、それぞれ47.1%・42.7%と、子育ての支えが ある という人に比べて多くなっている。

なお、「言葉による脅しや子どもからの働きかけの無視」は、子育ての支えの有無にかかわらず多い。

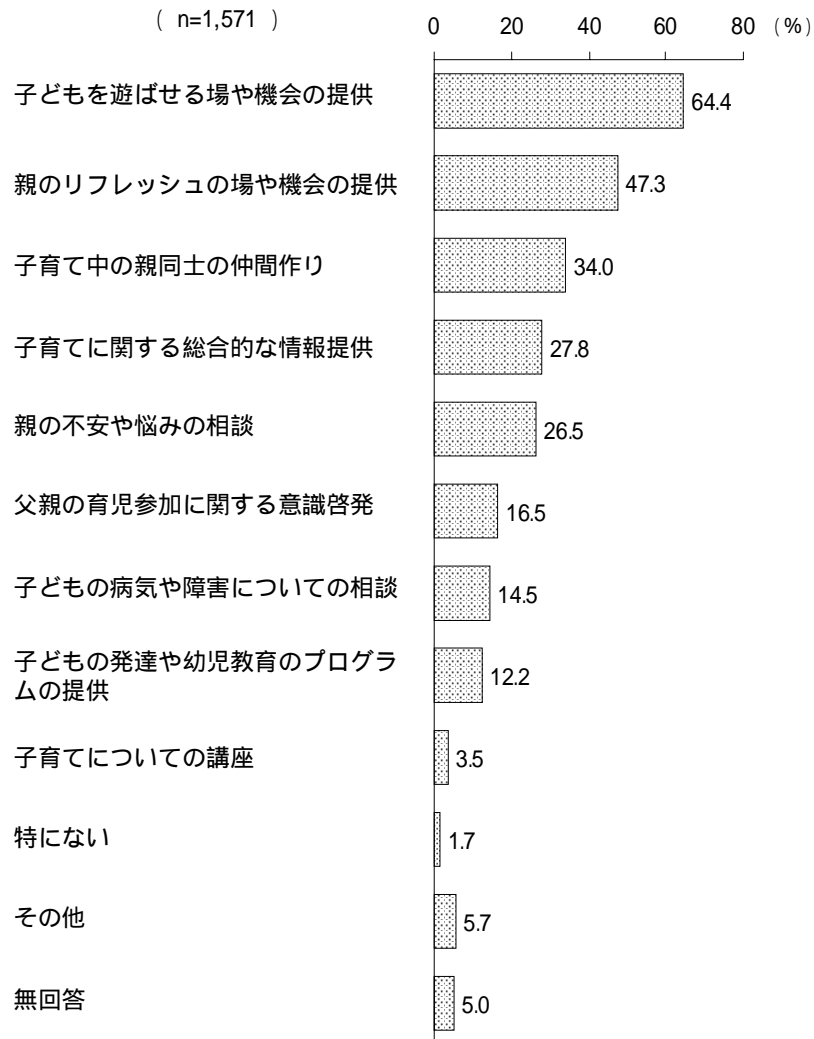
図2 - 19 子育ての支えの有無別 子どもを虐待していると思う状況



2 - 12 子育てを楽しく安心して行うために必要なサービス

Q7 日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサービスはどのようなものだと思いますか。(は3つまで)

図 2 - 20

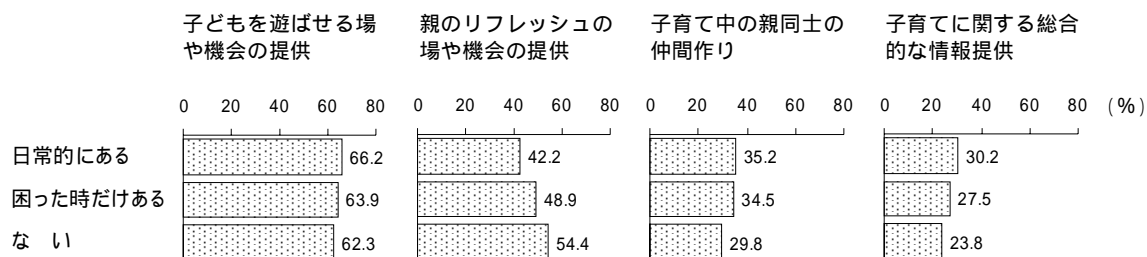


楽しく子育てをするのに必要なサービスとしては、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が64.4%で最も多く、以下「親のリフレッシュの場や機会の提供」(47.3%)、「子育て中の親同士の仲間作り」(34.0%)、「子育てに関する総合的な情報提供」(27.8%)、「親の不安や悩みの相談」(26.5%)の順で続いている。

祖父母や親族による子育ての支えの有無別でみると、子育ての支えが ない 困った時だけある という人では、「親のリフレッシュの場や機会の提供」がそれぞれ54.4%・48.9%と、子育ての支えが ある という人に比べて多くなっている。

図 2 - 21 子育ての支えの有無別

子育てを楽しく安心して行うために必要なサービス（上位 4 位）

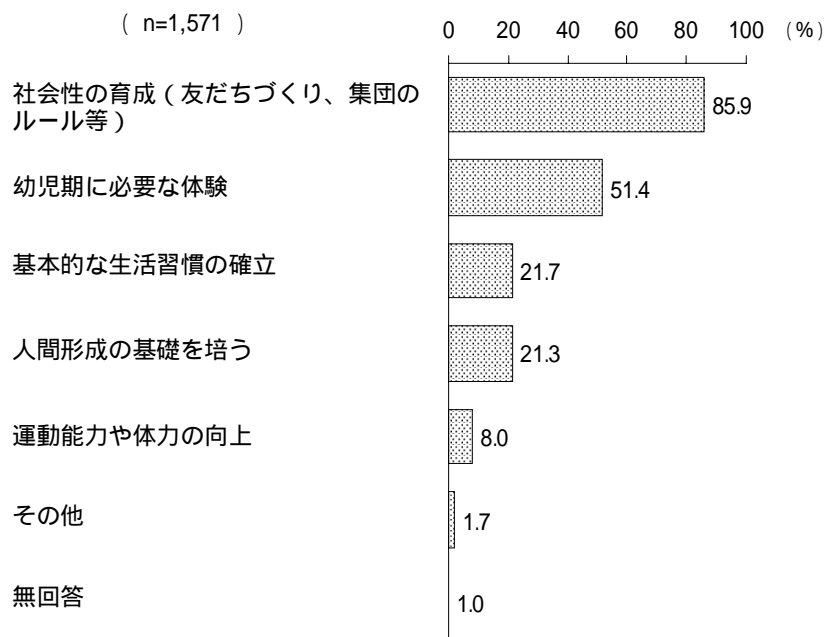


第3章 子どもの教育・保育

3 - 1 幼児期の教育で幼稚園や保育所等に望むこと

Q 8 - 1 幼児期の教育について、幼稚園や保育所等に特に何を望みますか。(は2つまで)

図 3 - 1

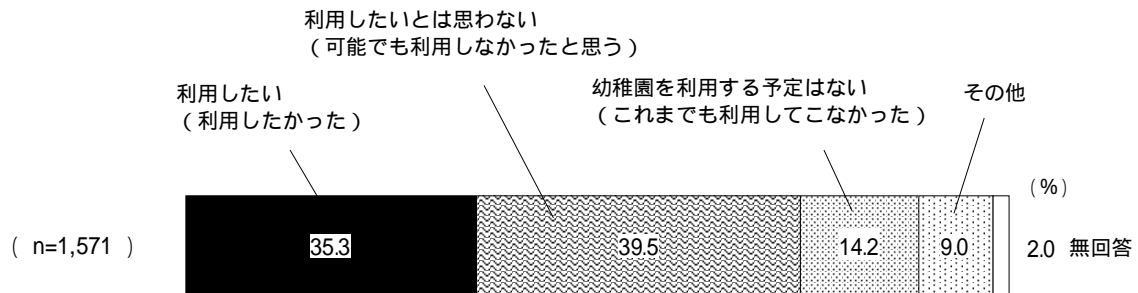


幼児期の教育について、幼稚園や保育所等に望むこととしては、「社会性の育成(友だちづくり、集団のルール等)」が85.9%と圧倒的に多くなっている。また、「幼児期に必要な体験」(51.4%)も過半数を占めている。

3 - 2 幼稚園の年度途中入園の利用意向

Q 8 - 2 お子さん（該当のお子さんに限りません）が満3歳になった時点で、年度途中でも幼稚園に入園できる制度を導入している幼稚園もありますが、この制度の利用について、どのように思いますか。（ は1つ）

図 3 - 2

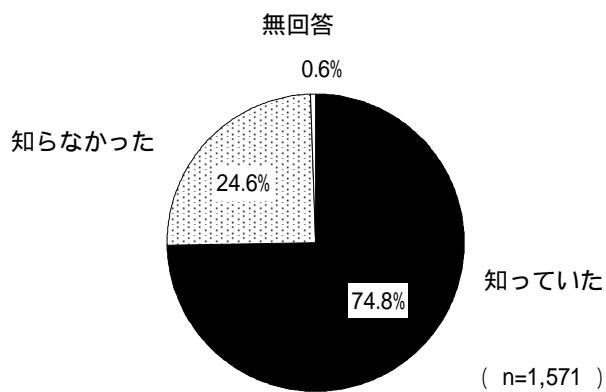


子どもが満3歳になった時点で、年度途中で幼稚園に入園できる制度を導入している幼稚園がありますが、こうした制度については、「利用したい（利用したかった）」（35.3%）と「利用したいとは思わない（可能でも利用しなかったと思う）」（39.5%）とに分かれている。

3 - 3 幼稚園の預かり保育の認知状況

Q 8 - 3 預かり保育を実施している幼稚園もありますが、その制度を知っていましたか。
(は1つ)

図 3 - 3

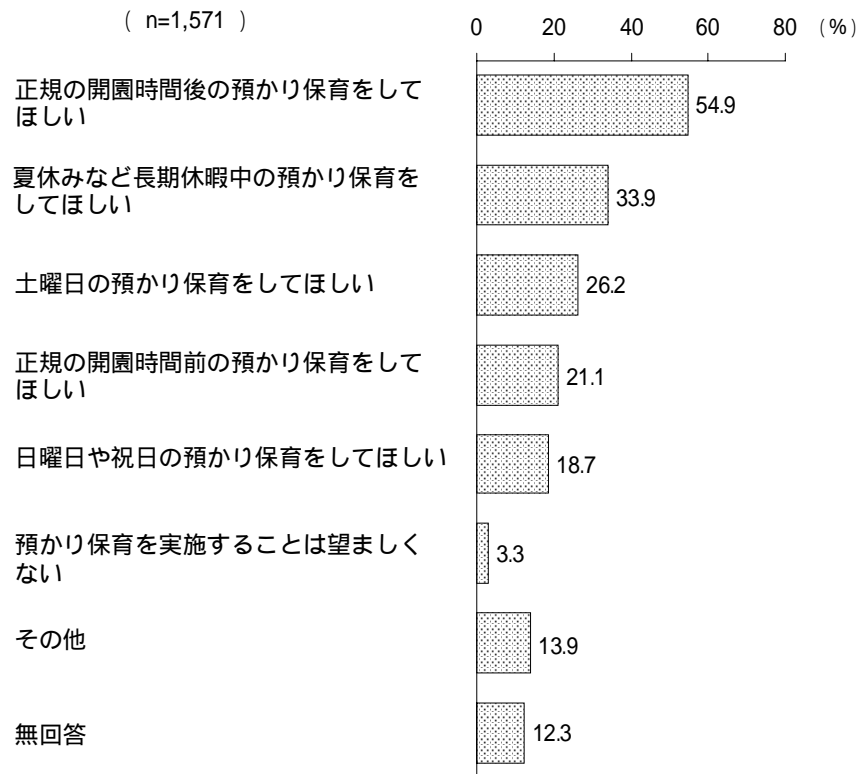


幼稚園の預かり保育という制度について「知っていた」という人は74.8%を占めている。

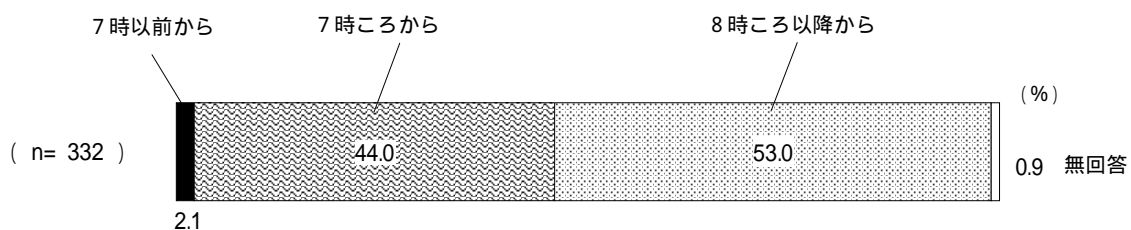
3 - 4 幼稚園の預かり保育についての考え

Q 8 - 4 幼稚園の預かり保育について、どのようにお考えですか。次のうち、あてはまるものすべてに をつけてください。

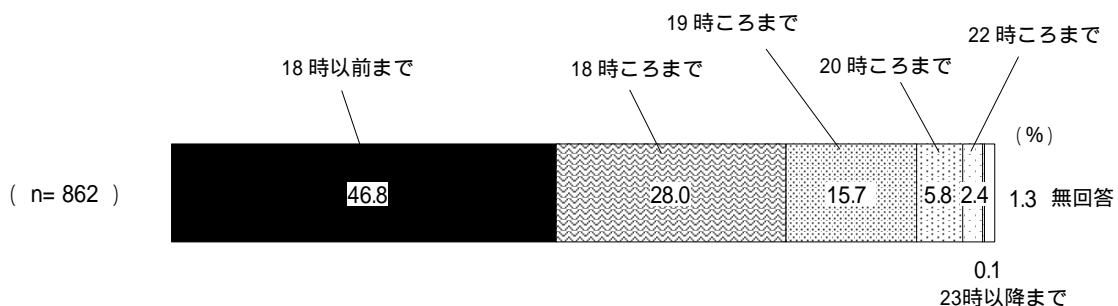
図 3 - 4



正規の開園時間前の預かり保育の希望開始時間



正規の開園時間後の預かり保育の希望終了時間



幼稚園の預かり保育については、「正規の開園時間後の預かり保育をしてほしい」が54.9%と過半数を占めている。一方、「正規の開園時間前の預かり保育をしてほしい」は21.1%となっている。

他の要望としては「夏休みなど長期休暇中の預かり保育をしてほしい」が33.9%となっているほか、「土曜日の預かり保育をしてほしい」も26.2%となっている。

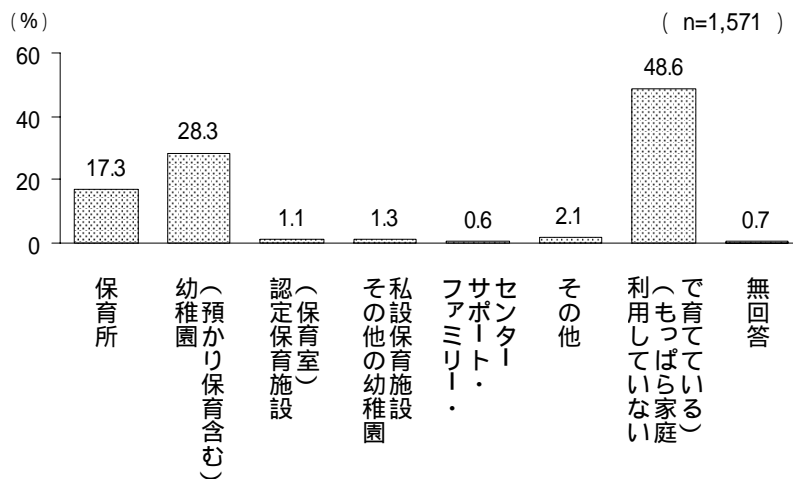
正規の開園時間前の預かり保育をしてほしい という人では、「8時ころ以降から」が53.0%で過半数を占め、次いで「7時ころから」(44.0%)が多くなっている。

正規の開園時間後の預かり保育をしてほしい という人では「18時以前まで」が46.8%で最も多く、これに「18時ころまで」(28.0%)が次いでいる。また、18時以降の保育の希望も2割を超えている。

3 - 5 平日の保育サービスの利用状況

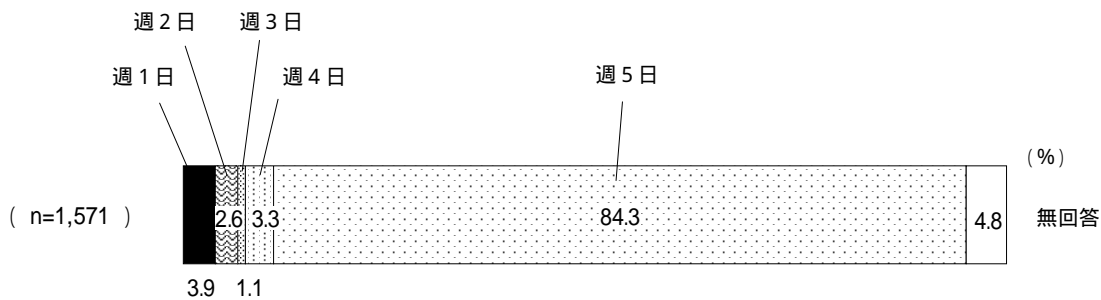
Q 9 - 1 該当のお子さんについて、現在、平日の保育に関するサービス（一時的な利用は除きます）を利用していますか。次のうち、主に利用しているものにつけてください。（ は1つ）

図 3 - 5



続いて、Q 9 - 1で答えた保育に関するサービスを利用している日数とその時間帯を記入してください。

図 3 - 6



平日の保育サービスの利用状況を見ると、「幼稚園（預かり保育を含む）」が28.3%で最も多く、これに「保育所」（17.3%）が次いでいる。

一方、「利用していない（もっぱら家庭で育てている）」は48.6%と半数近くを占めている。

保育サービスを利用しているという人の利用日数は、「週5日」が84.3%と8割を超えている。

また、この結果を平均すると「週4.7日」となる。

子どもの年齢別でみると、1歳・2歳では、「保育所」がそれぞれ14.9%・15.6%と多くなっているが、3歳では「幼稚園（預かり保育を含む）」が43.1%と、「保育所」(21.5%)を上回る。さらに、4歳・5歳になると、「幼稚園（預かり保育を含む）」が、それぞれ65.9%・67.5%を占めている。

図3 - 7 子どもの年齢別 平日の保育サービスの主な利用状況

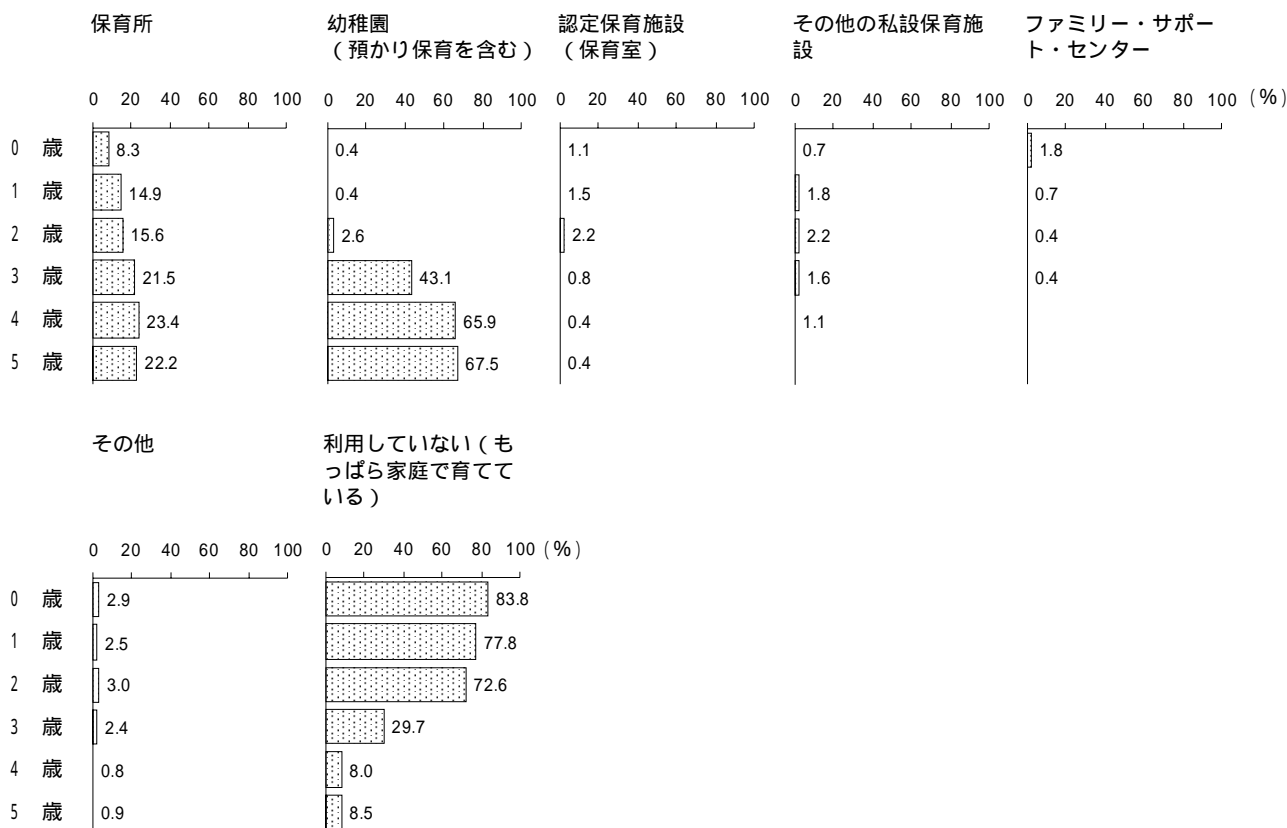
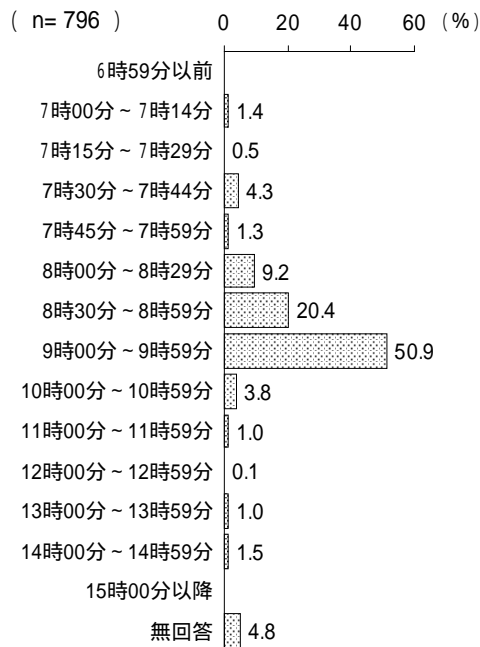
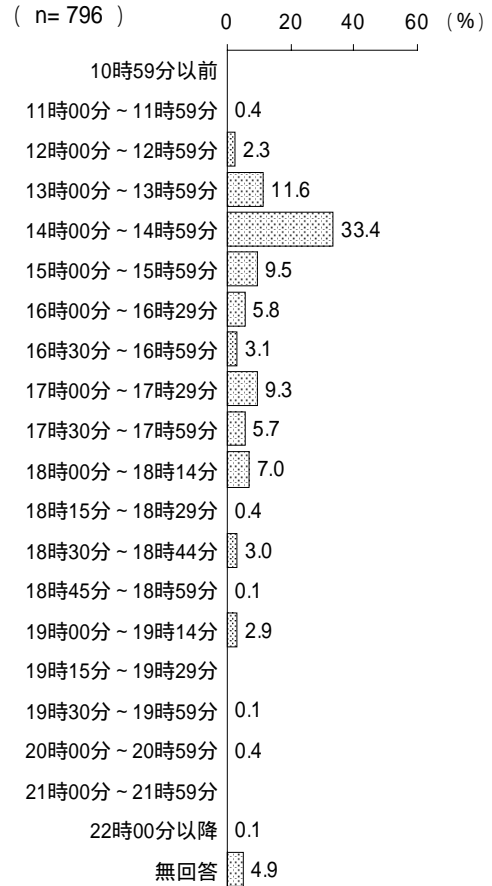


図 3 - 8

平日の保育サービスの利用開始時刻



平日の保育サービスの利用終了時刻



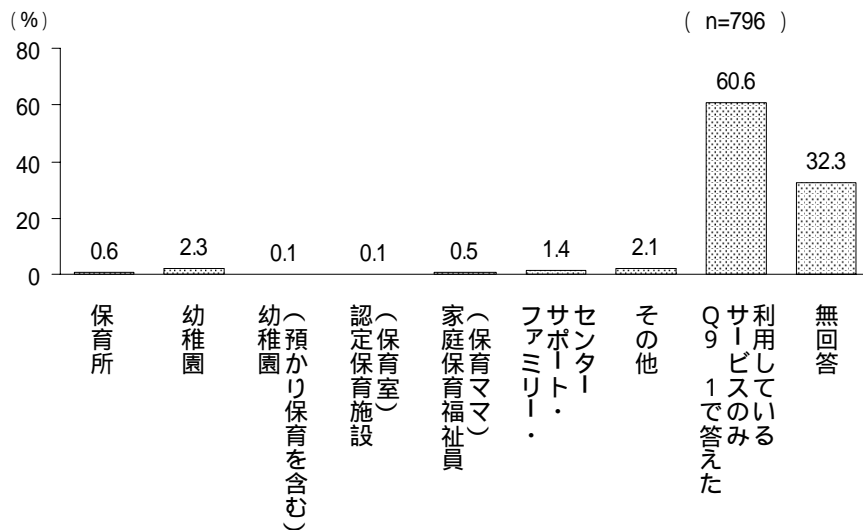
開始時間では、「9時00分～9時59分」(50.9%)が過半数を占めて最も多く、これに「8時30分～8時59分」(20.4%)が次いでいる。

終了時間では、「14時00分～14時59分」(33.4%)が最も多く、他の時間帯は、「13時00分～13時59分」(11.6%)と「15時00分～15時59分」(9.5%)などに分散している。

3 - 6 平日のその他の保育サービスの利用状況

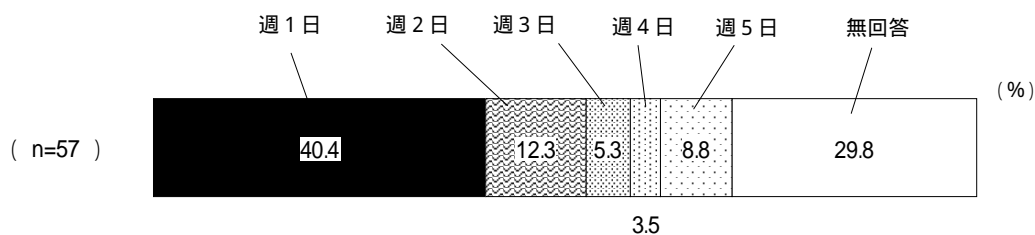
Q9 - 2 Q9 - 1で答えたもの以外にも、平日の保育に関するサービスを利用していますか。
次のうち、主に利用しているものにつけてください。(は1つ)

図3 - 9



続いて、Q9 - 2で答えた保育に関するサービスを利用している日数とその時間帯を記入してください。

図3 - 10

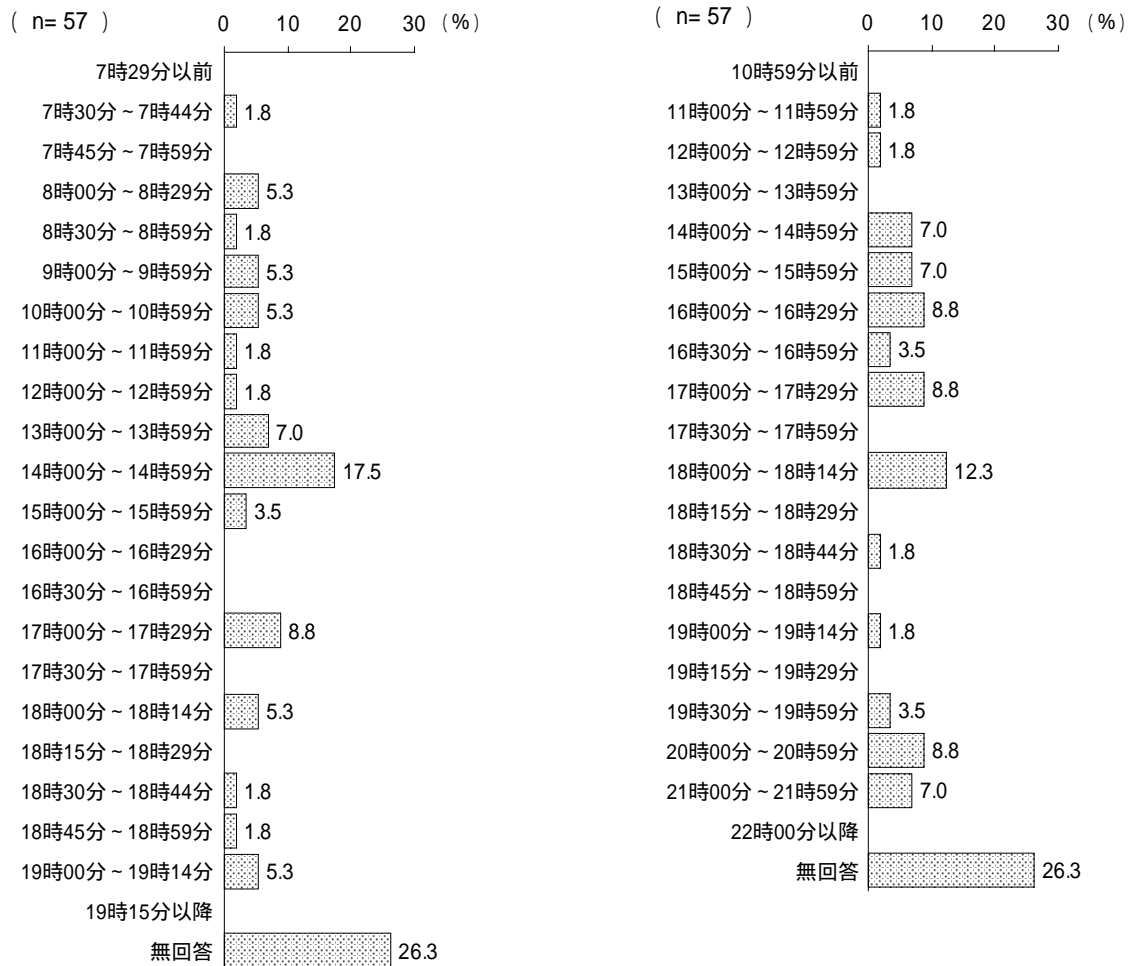


前設問の保育サービス以外の利用状況を見ると、「前設問のサービスのみ利用している」が60.6%となっている。他のサービスの利用率は低いですが、その中では「ファミリー・サポート・センター」が1.4%と多くなっている。

保育サービスを利用しているという人の利用日数は、「週1日」が40.4%で最も多くなっている。また、この結果を平均すると「週2.0日」となる。

図 3 - 11

平日のその他の保育サービスの利用開始時刻 平日のその他の保育サービスの利用終了時刻



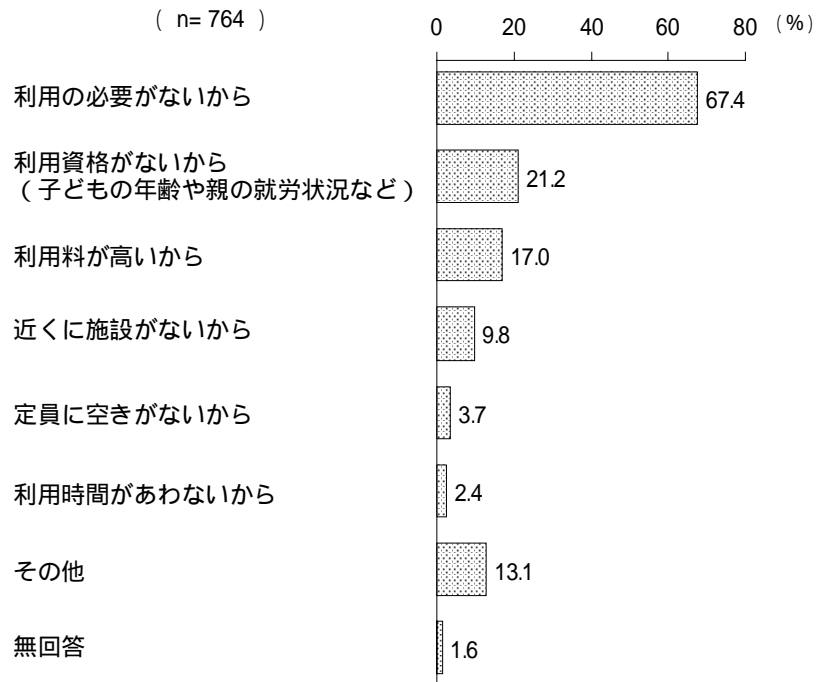
開始時間では、「14時00分～14時59分」(17.5%)が、終了時間では、「18時00分～18時14分」(12.3%)が多くなっている。

3 - 7 平日に保育サービスを利用しない理由

【次のQ9 - 3は、Q9 - 1で「8 . 利用していない(もっぱら家庭で育てている)」と答えた方におたずねします】

Q9 - 3 現在、平日に保育に関するサービスを利用していない理由は何ですか。次のうち、あてはまるものすべてに をつけてください。

図3 - 12



保育サービスを利用していない人(全体の48.6%)に、その理由をきくと、「利用の必要がないから」(67.4%)が圧倒的に多くなっている。他の項目では、「利用資格がないから(子どもの年齢や親の就労状況など)」(21.2%)と「利用料が高いから」(17.0%)が多くなっている。

3 - 8 希望どおりの利用可能時の平日の保育サービスの利用意向

Q10-1 希望どおり保育に関するサービスを利用できるとしたら、該当のお子さんの平日の保育について、保育に関するサービス（一時的な利用は除きます）を利用したいと思いますか。

図3-13

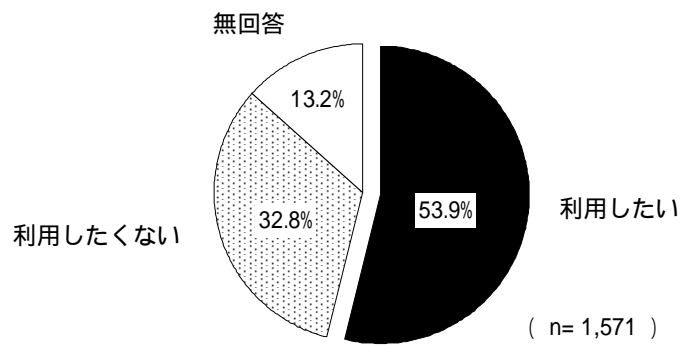
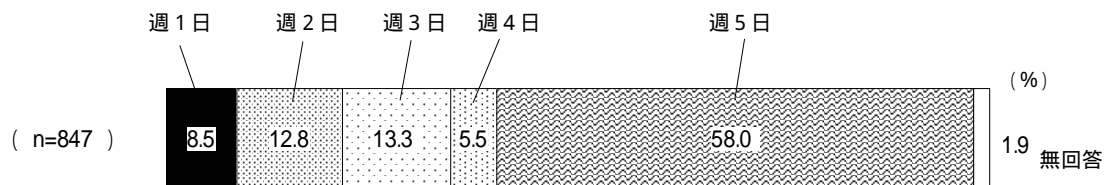


図3-14 利用日数



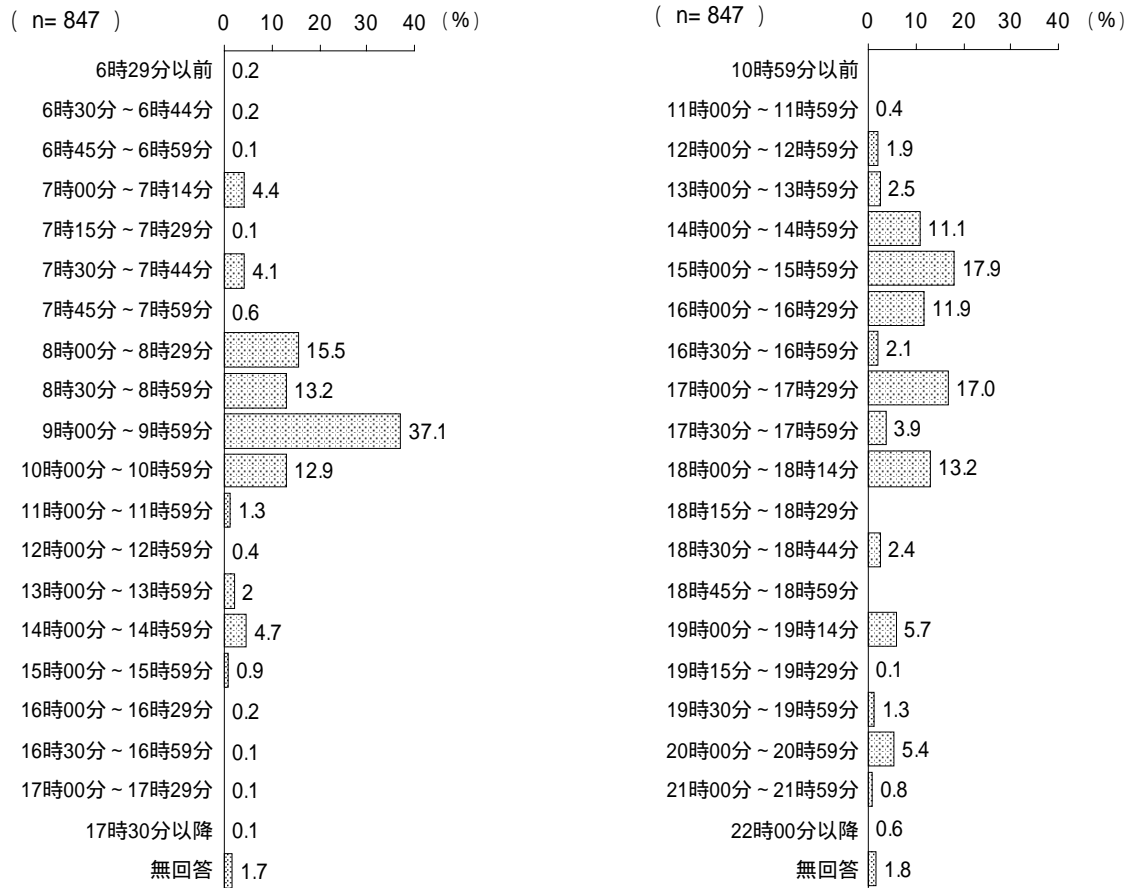
平日の保育サービスを「利用したい」が53.9%と過半数を占めている。一方「利用したくない」は32.8%となっている。

その場合の利用日数としては、「週5日」が58.0%と6割近くを占めている。

また、この結果を平均すると「週3.9日」となる。

図 3 - 15

平日の保育サービス利用希望時の利用希望開始時刻 平日の保育サービス利用希望時の利用希望終了時刻



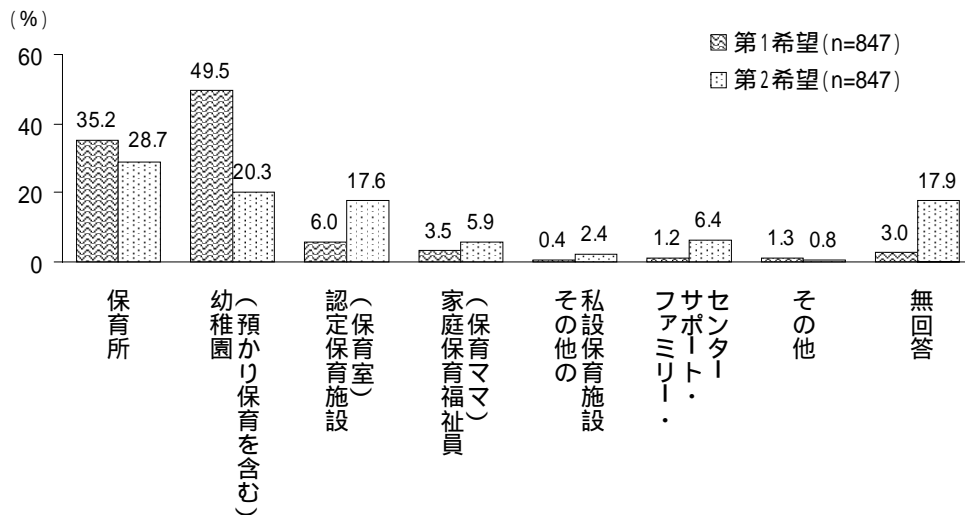
その場合の希望利用開始時間では、「9時00分～9時59分」(37.1%)が最も多く、これに「8時00分～8時29分」(15.5%)が次いでいる。

終了時間では、「15時00分～15時59分」(17.9%)と「17時00分～17時29分」(17.0%)などに分散している。

3 - 9 平日の保育サービスの希望サービス

続いておたずねします。いずれの保育に関するサービスも、Q10 - 1で答えた日数と時間帯で利用できるとしたら、どのような保育に関するサービスを利用したいと思いますか。

図 3 - 16



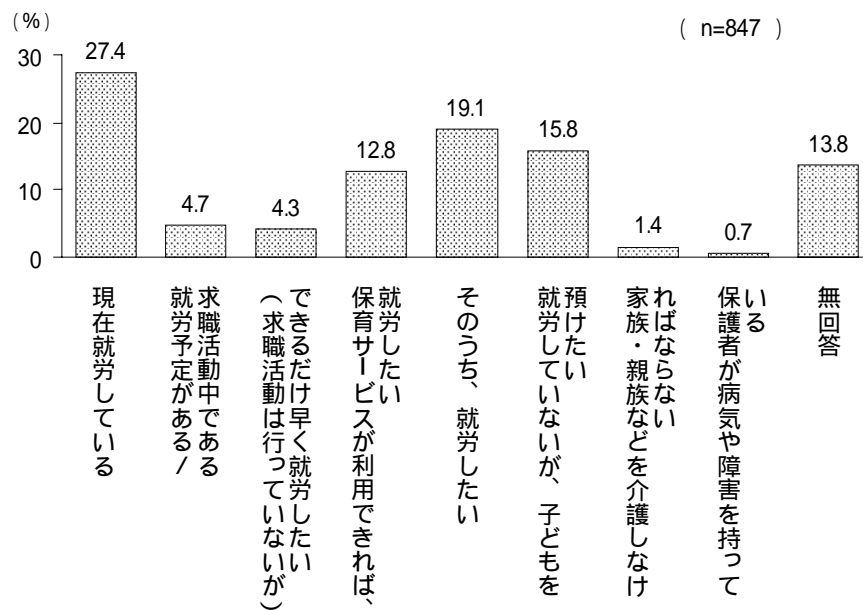
その場合の利用希望サービスをみると、第一希望として、「幼稚園(預かり保育を含む)」が49.5%で最も多く、これに「保育所」(35.2%)が次いでいる。

また、第二希望としては「保育所」(28.7%)と「幼稚園(預かり保育を含む)」(20.3%)が2割を超えて多くなっている。

3 - 10 サービスの利用を希望する主な保護者の状況

Q10-2 平日の保育に関するサービス（一時的な利用は除きます）を利用したい方で、ふだん主に該当のお子さんの面倒をみている方に、次のような事情があれば、あてはまるものに つけてください。

図3-17

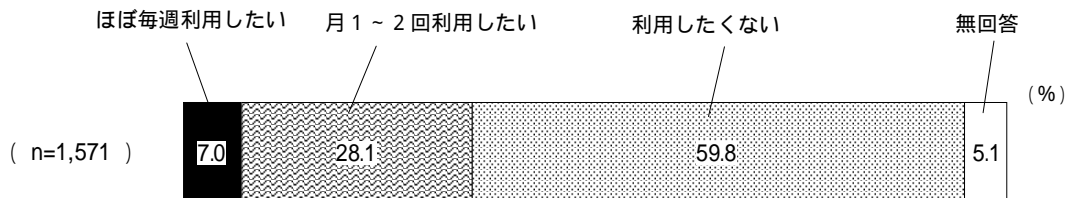


保育サービスの利用意向のある人のうち、主な保護者の状況を見ると、「現在就労している」が27.4%で最も多く、「そのうち、就労したい」(19.1%)が次いでいる。

3 - 11 土曜日の保育サービスの利用意向

Q 1 1 - 1 該当のお子さんについて、土曜日に、保育に関するサービスなど（一時的な利用は除きます）を利用したいと思いますか。（ は1つ）

図 3 - 18



土曜日の保育サービスについては、「ほぼ毎週利用したい」が7.0%で、これに「月1~2回利用したい」(28.1%)を合わせた 利用意向 は35.1%を占めている。

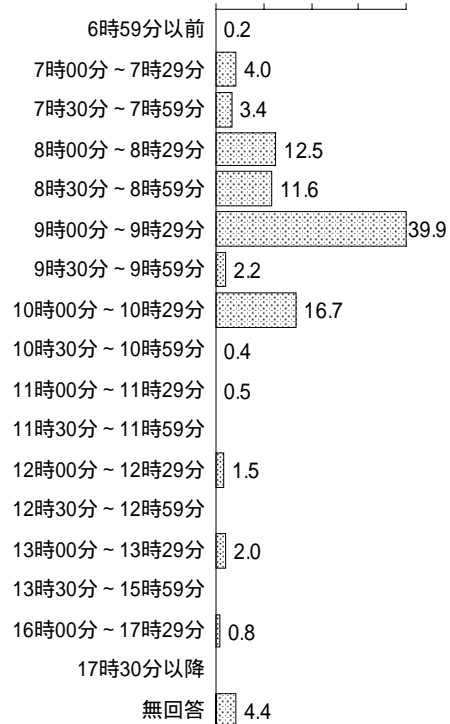
続いて、利用を望まれる場合、ご希望の時間帯を記入してください。

図 3 - 19

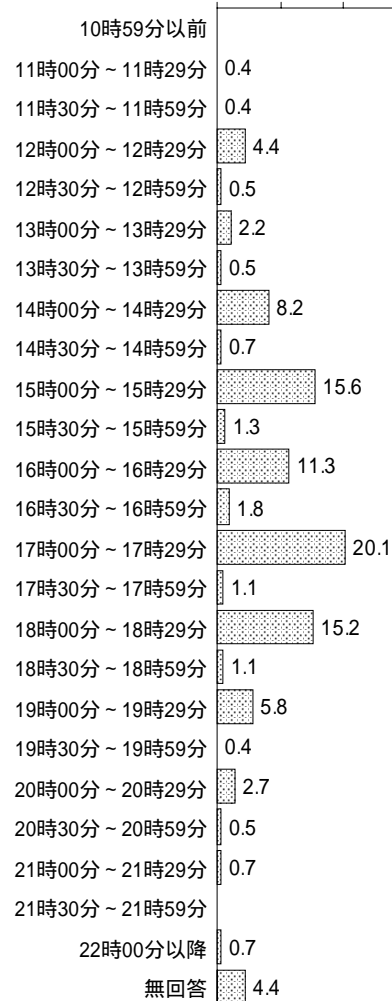
土曜日の保育サービスの利用希望開始時刻

土曜日の保育サービスの利用希望終了時刻

(n = 551) 0 10 20 30 40 (%)



(n = 551) 0 10 20 30 (%)



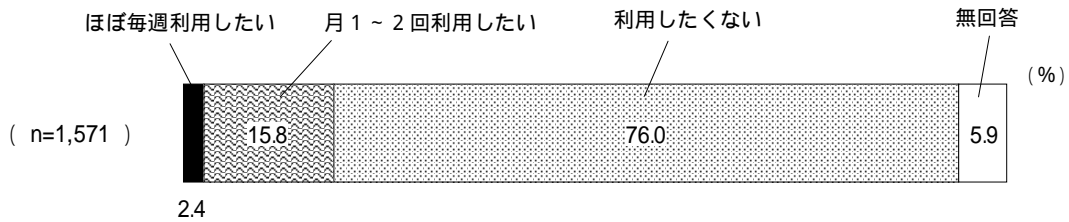
その場合の希望利用開始時間では、「9時00分～9時29分」(39.9%) が最も多く、これに「10時00分～10時29分」(16.7%) が次いでいる。

終了時間では、「17時00分～17時29分」(20.1%) と「15時00分～15時29分」(15.6%) などに分散している

3 - 12 休日（日曜日、祝日）の保育サービスの利用意向

Q 1 1 - 2 該当のお子さんについて、休日（日曜日、祝日）に、保育に関するサービスなど（一時的な利用は除きます）を利用したいと思いますか。（ は1つ）

図 3 - 20

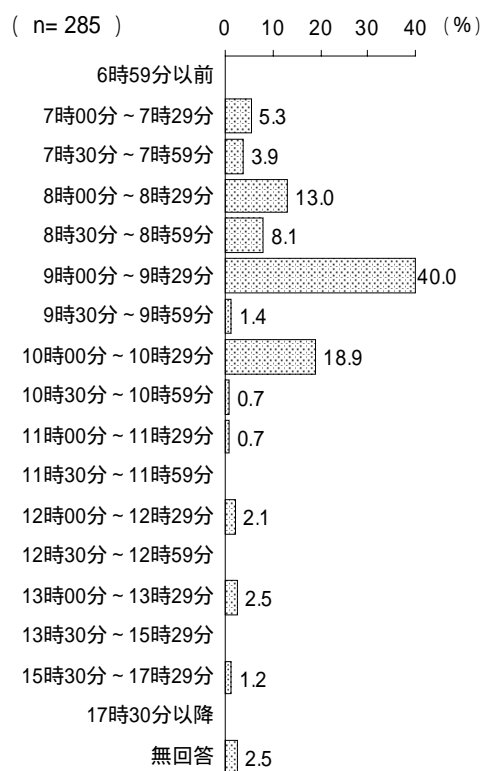


休日（日曜日、祝日）の保育サービスについては、「ほぼ毎週利用したい」が2.4%で、これに「月1~2回利用したい」（15.8%）を合わせた 利用意向 は18.2%を占めている。

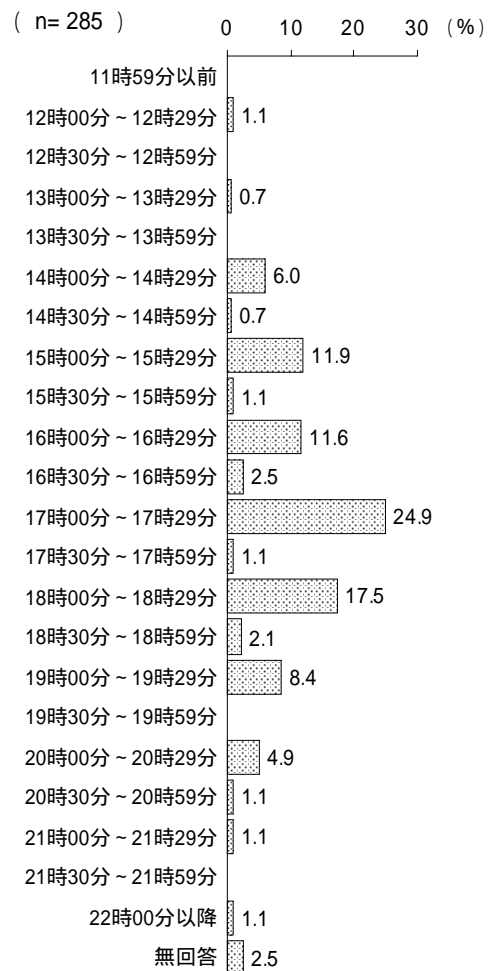
続いて、利用を望まれる場合、ご希望の時間帯を記入してください。

図 3 - 21

休日（日曜日、祝日）の保育サービスの
利用希望開始時刻



休日（日曜日、祝日）の保育サービスの
利用希望終了時刻



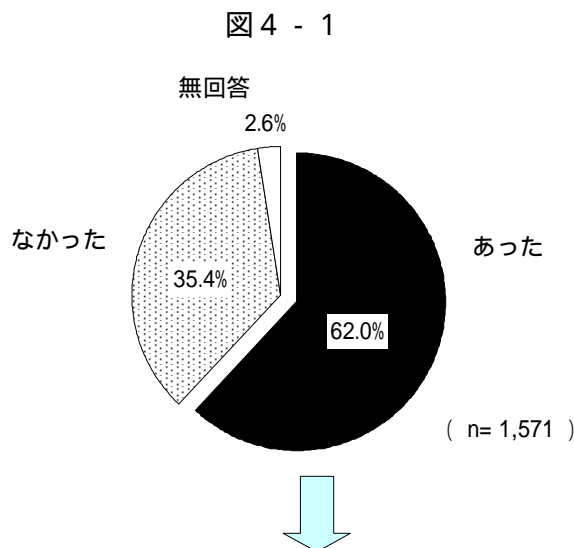
その場合の希望利用開始時間では、「9時00分～9時29分」(40.0%)が最も多く、これに「10時00分～10時29分」(18.9%)が次いでいる。

終了時間では、「17時00分～17時29分」(24.9%)と「18時00分～18時29分」(17.5%)などに分散している

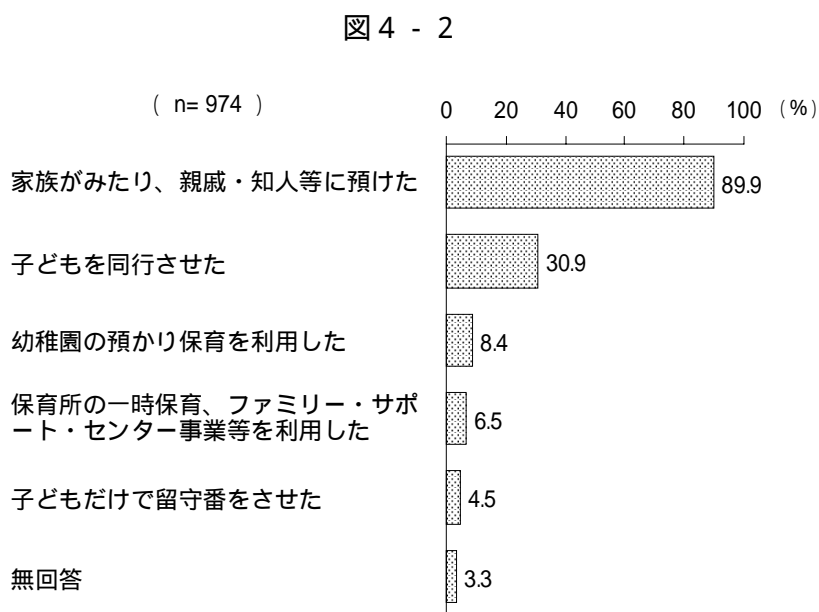
第4章 一時預かり等のサービスの利用

4 - 1 やむを得ない事情で子どもの面倒をみられなくなったこと

Q12-1 この1年間に、冠婚葬祭、保護者・家族の病気・入院・通院、子どもの学校の用事などのやむを得ない事情で、ふだん主に該当のお子さんの面倒をみている方が、日中に該当のお子さんの面倒をみられなくなったことはありますか。



具体的な対処方法とそれぞれのおおよその日数は？



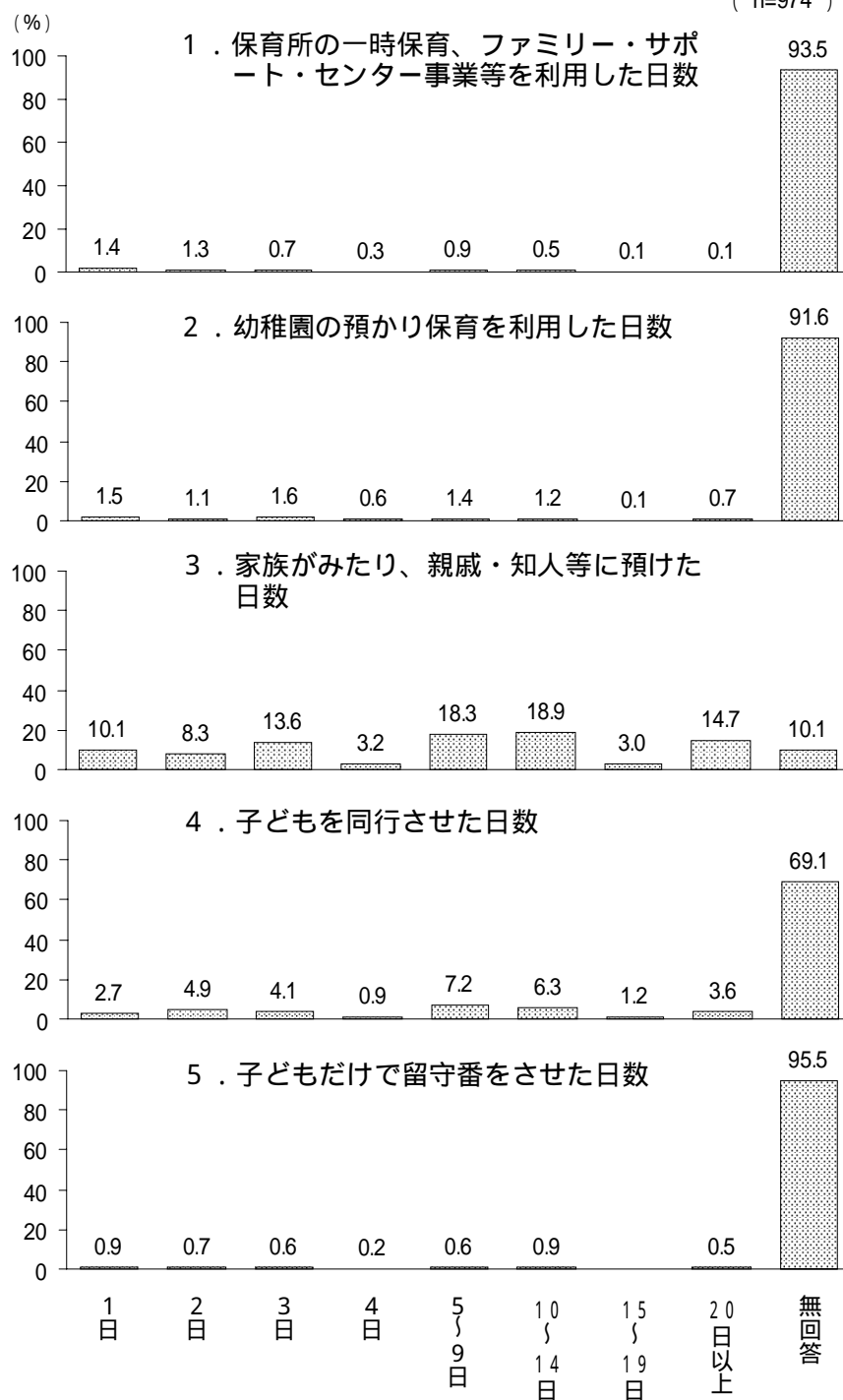
緊急の用事で、子どもの面倒をみられなくなったことが「あった」人が62.0%と、6割を超えている。

その対処方法としては、「家族がみたり、親戚・知人等に預けた」(89.9%)が圧倒的に多くなっている。また、「子どもを同行させた」(30.9%)も多い。

図 4 - 3

この1年間に...

(n=974)

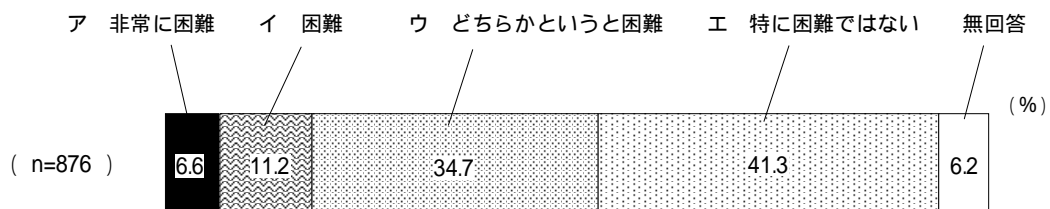


日数では、家族がみたり、親戚・知人等に預けた では、この1年で「5～9日」(18.3%)と「10～14日」(18.9%)が特に多くなっている。

また、子どもを同行させた では、この1年で「5～9日」(7.2%)と「10～14日」(6.3%)が特に多くなっている。

家族がみたり、親戚・知人等に預ける難しさは？

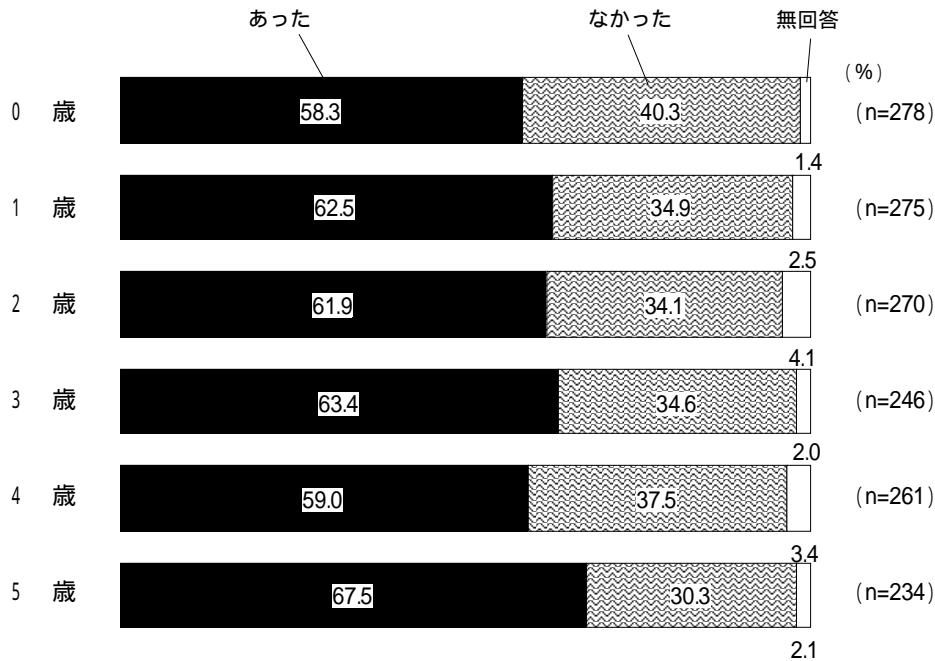
図 4 - 4



“家族がみたり、親戚・知人等に預ける”場合の困難度は、「非常に困難」が6.6%で、これに「困難」(11.2%)と「どちらかという困難」(34.7%)を合せた 困難である は52.5%と過半数を占めている。一方、「特に困難ではない」は41.3%となっている。

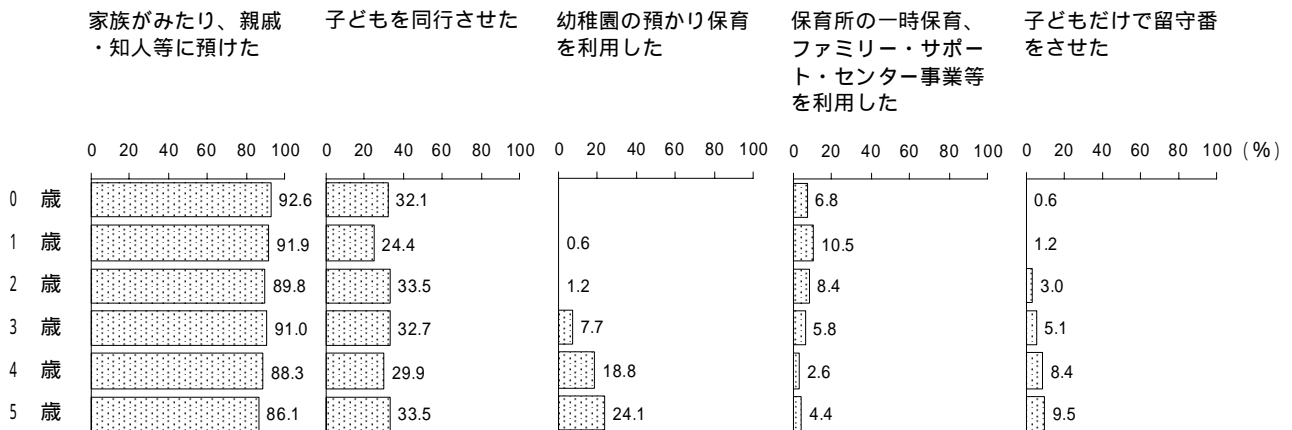
緊急の用事で子どもの面倒をみられなくなったことの有無を、子どもの年齢別でみると、5歳では「あった」が67.5%と、他の年代と比べて多くなっている。

図4 - 5 子どもの年齢別 やむを得ない事情で子どもの面倒をみられなくなったこと



具体的な対処方法を年齢別でみると、1歳・2歳では、「保育所の一時保育、ファミリー・サポート・センター事業等を利用した」が、それぞれ10.5%・8.4%と多くなっている。一方、4歳・5歳では、「幼稚園の預かり保育を利用した」が、18.8%・24.1%と他の年齢に比べて多くなっている。

図4 - 6 年齢別 やむを得ない事情で子どもの面倒をみられなくなった時の対処方法



4 - 2 私的な用事等で子どもを家族・親族以外に預けたいと思うことと、その日数・時間

Q 1 2 - 2 該当のお子さんを家族・親族以外の誰かに預けて、美容院、習い事、スポーツ、会合などの私的な用事を足したり、育児疲れをリフレッシュしたいと思うことはありますか。

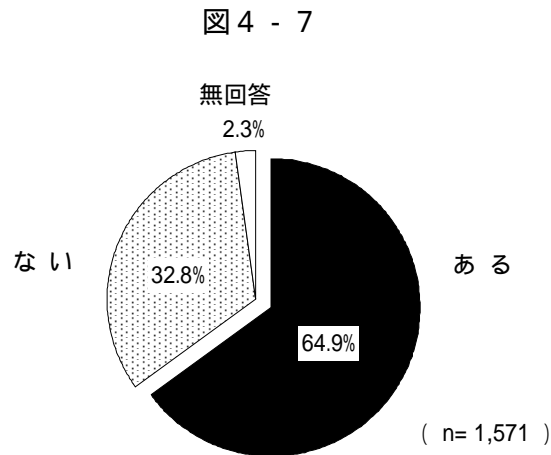
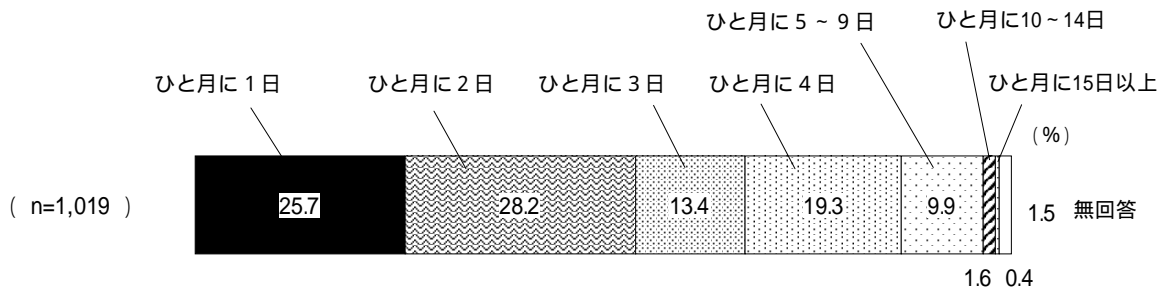


図 4 - 8 日数



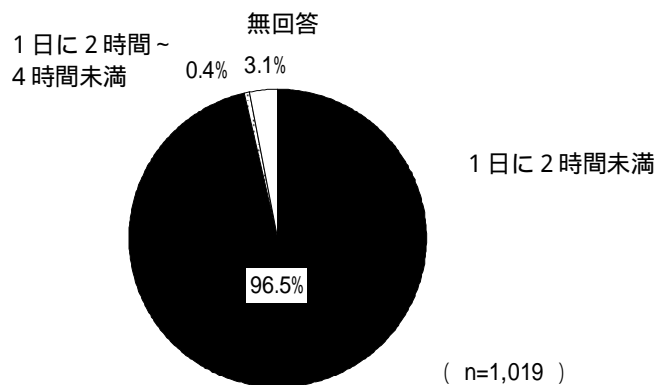
私的な用事やリフレッシュの目的で、子どもを家族・親族以外に預けたいと思うことが「ある」人は64.9%を占めている。

その場合の利用日数としては、「ひと月に1日」(25.7%)と「ひと月に2日」(28.2%)が多くなっている。

また、この結果を平均すると「ひと月に2.8日」となる。

私的用事やリフレッシュ目的で子どもを家族・親族以外に預けたい時間

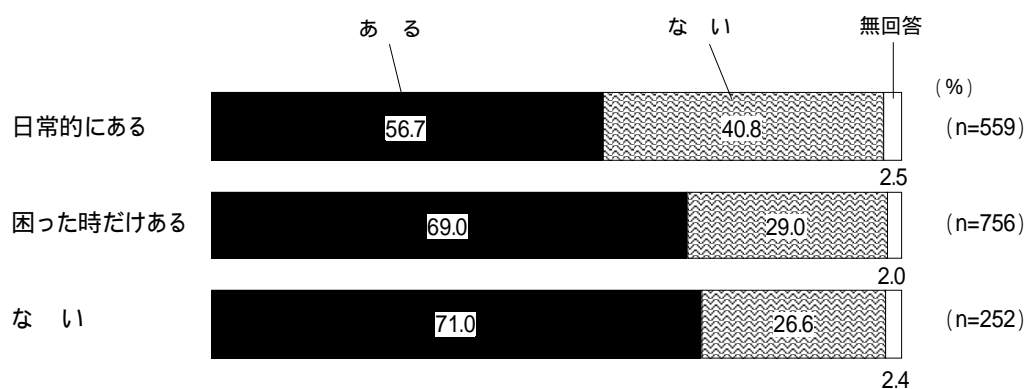
図 4 - 9



利用時間としては「1日に2時間未満」(96.5%)に集中している。
また、この結果を平均すると「1日に0.5時間」となる。

私的な用事やリフレッシュの目的で、子どもを家族・親族以外に預けたいと思うことの有無について、祖父母や親族による子育ての支えの有無別でみると、子育ての支えがない 困った時だけある という人では、「ある」が、それぞれ71.0%・69.0%と、子育ての支えがある という人に比べて多くなっている。

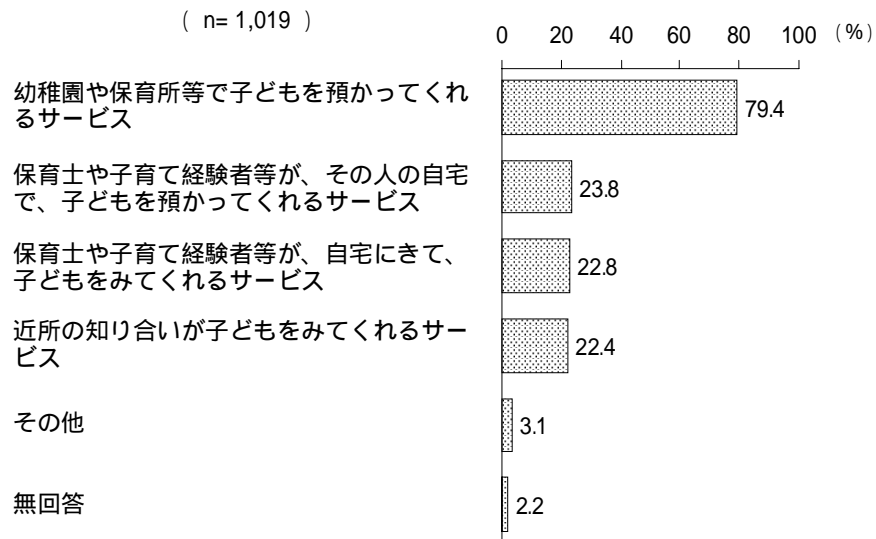
図 4 - 10 子育ての支えの有無別 私的な用事等で子どもを家族・親族以外に預けたいと思うこと



4 - 3 私的な用事等で子どもを預けたいサービス

続いておたずねします。該当のお子さんを預けるとしたら、次のうち、どのサービスを利用したいと思いますか。利用したいサービスすべてに をつけてください。

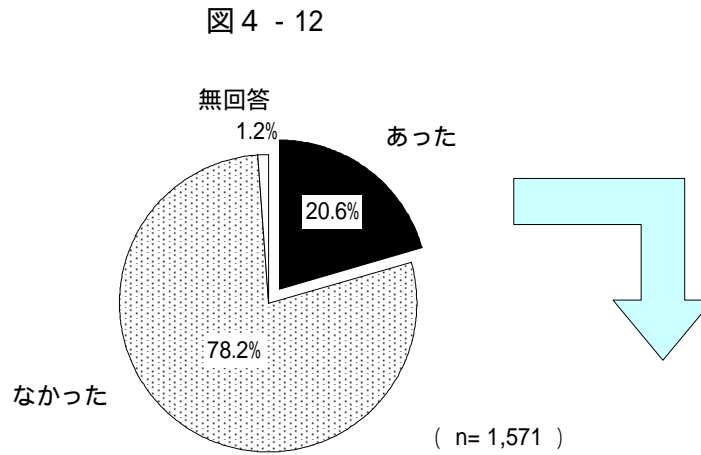
図 4 - 11



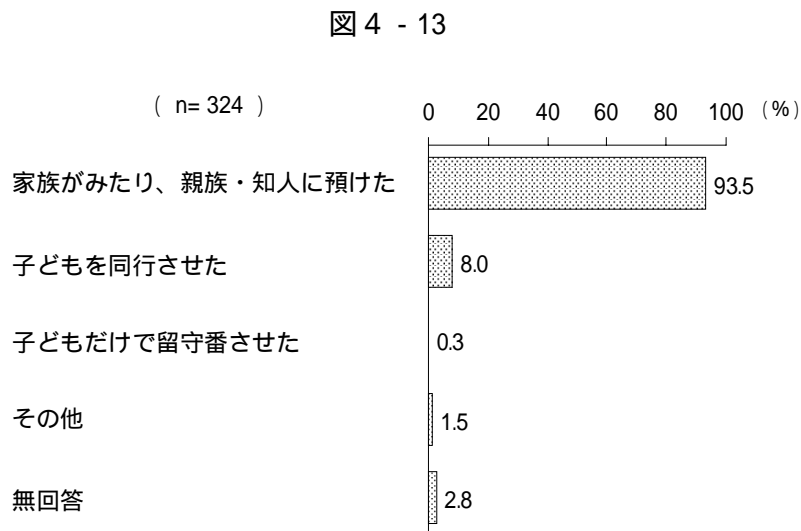
その場合に利用したいサービスとしては、「幼稚園や保育所等で子どもを預かってくれるサービス」(79.4%)が圧倒的に多くなっている。他の項目としては、「保育士や子育て経験者等が、その人の自宅で、子どもを預かってくれるサービス」(23.8%)、「保育士や子育て経験者等が、自宅にきて、子どもをみてくれるサービス」(22.8%)、「近所の知り合いが子どもをみてくれるサービス」(22.4%)の3項目は2割を超えている。

4 - 4 やむを得ない事情で子どもを泊まりがけで預けたこと

Q 1 3 この1年間に、保護者の病気や出産などのやむを得ない事情により該当のお子さんを泊まりがけで預けなければならないことはありましたか。



具体的な対処方法とそれぞれのおおよその日数は？



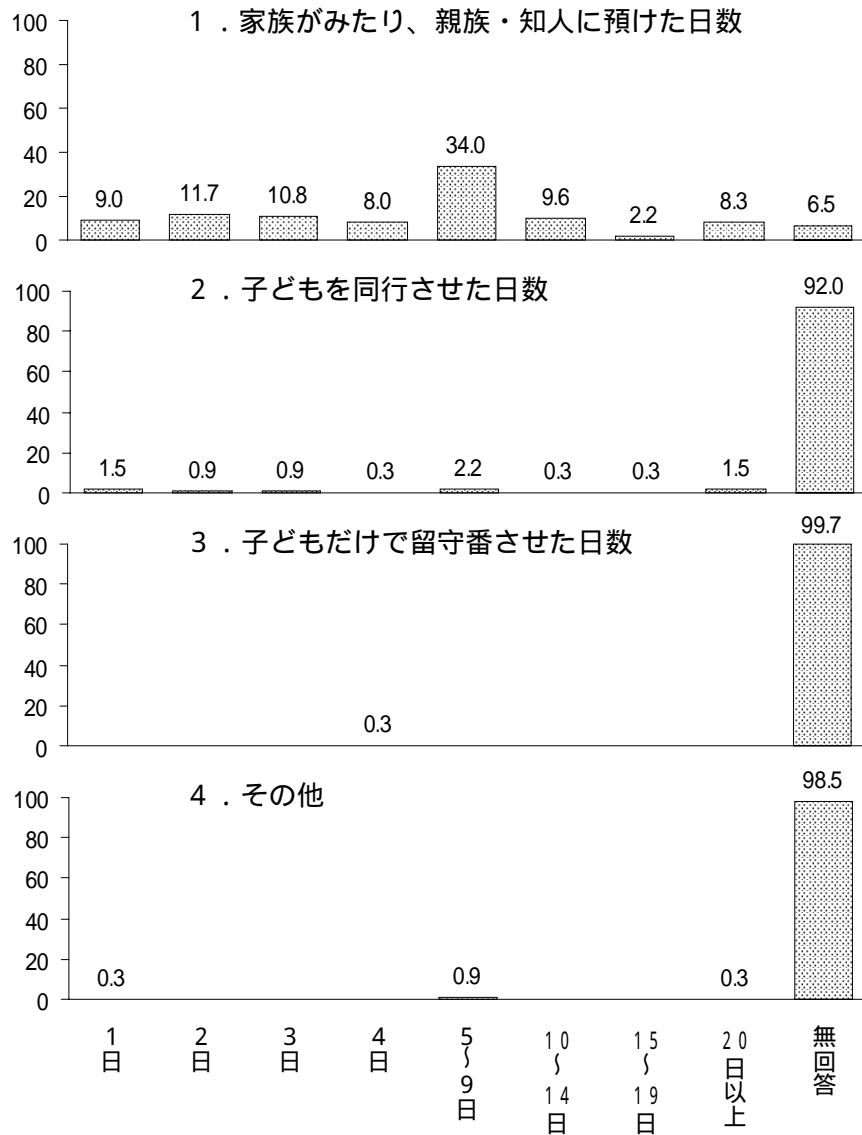
子どもを泊まりがけで家族以外に預けたことが「あった」人は20.6%となっている。一方、「なかった」は78.2%を占めている。

子どもを泊まりがけで家族以外に預けた場合の対処方法としては、「家族がみたり、親族・知人に預けた」(93.5%) に集中している。

図 4 - 14

この1年間で...

(n=324)

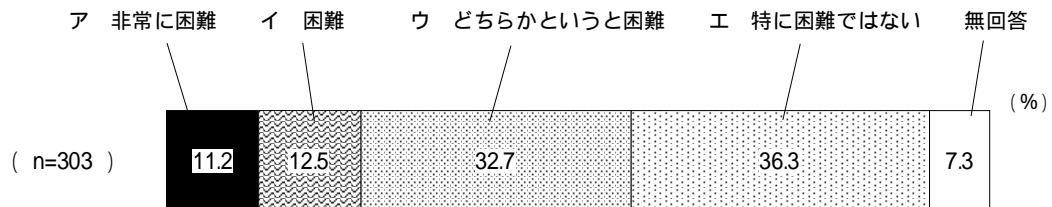


家族がみたり、親族・知人に預けた ケースでは、この1年で「5～9日」が34.0%で最も多く、これに「2日」(11.7%)が次いでいる。

また、この結果を平均すると「8.1日」となる。

家族がみたり、親族・知人に預ける難しさは？

図 4 - 15

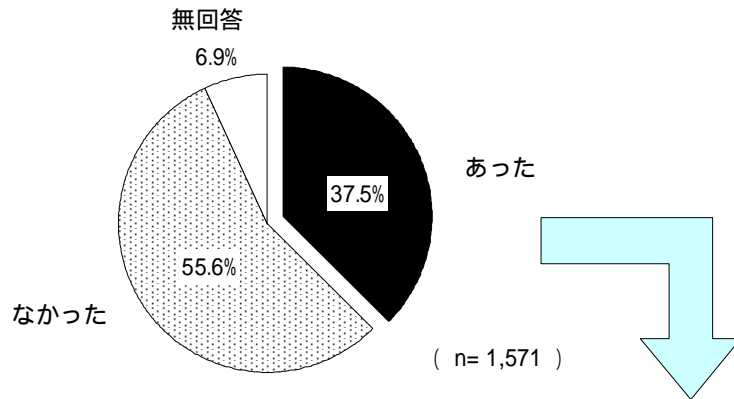


家族がみたり、親族・知人に預ける難しさは、「非常に困難」が11.2%で、これに「困難」(12.5%)と「どちらかという困難」(32.7%)を合わせると、困難であるは56.4%となっている。一方、「特に困難ではない」は36.3%となっている。

4 - 5 病気等により保育所等を休んだことと、その対処法

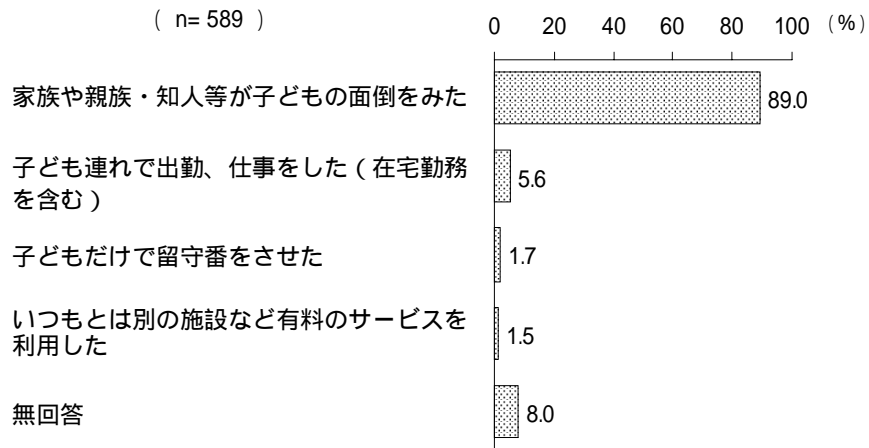
Q 1 4 この1年間に、該当のお子さんが病気や病気回復期にあり、保育所、私設保育施設(いわゆる認可外保育施設)や幼稚園を休んだことはありましたか。

図 4 - 16



具体的な対処方法

図 4 - 17

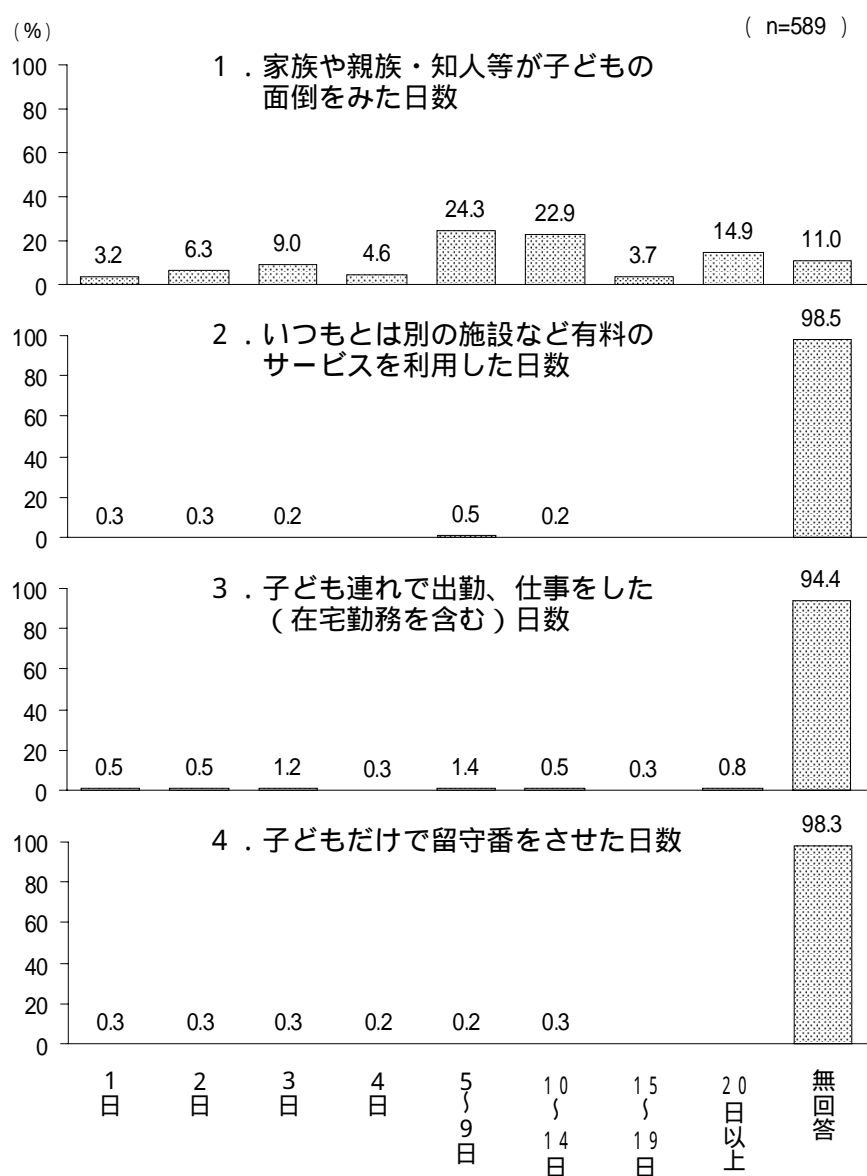


子どもが病気で保育所・幼稚園を休んだことが「あった」は37.5%を占めている。
 その対処方法としては、「家族や親族・知人等が子どもの面倒をみた」(89.0%)が際立って多くなっている。

それぞれのおおよその日数

図 4 - 18

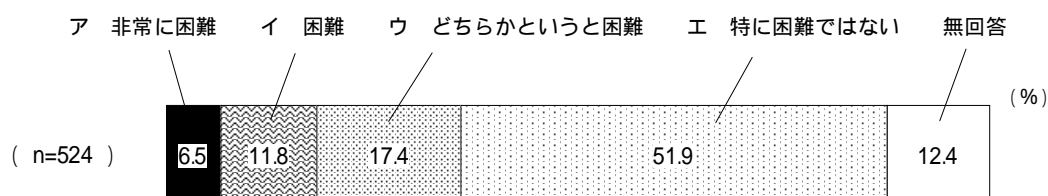
この1年間で...



対処した日数をみると、 家族や親族・知人等が子どもの面倒をみた ケースでは、この1年で「5～9日」(24.3%)と「10～14日」(22.9%)が特に多くなっている。
また、この結果を平均すると「10.6日」となる。

家族や親族・知人等が子どもの面倒をみる難しさは？

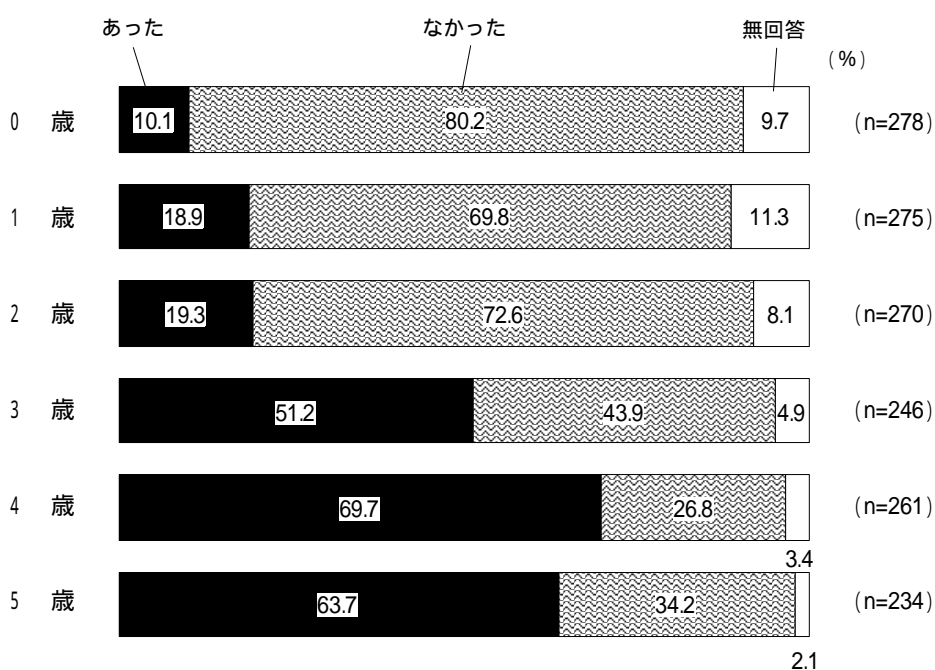
図 4 - 19



家族や親族・知人等が子どもの面倒をみる難しさとしては、「非常に困難」が6.5%で、これに「困難」(11.8%)と「どちらかという困難」(17.4%)を合わせた 困難である は35.7%を占めている。

子どもが病気で保育所・幼稚園を休んだことの有無について、子どもの年齢別でみると、3歳では、「あった」が51.2%を占め、4歳・5歳では60%を超えている。

図 4 - 20 子どもの年齢別 病気等により保育所等を休んだことの有無



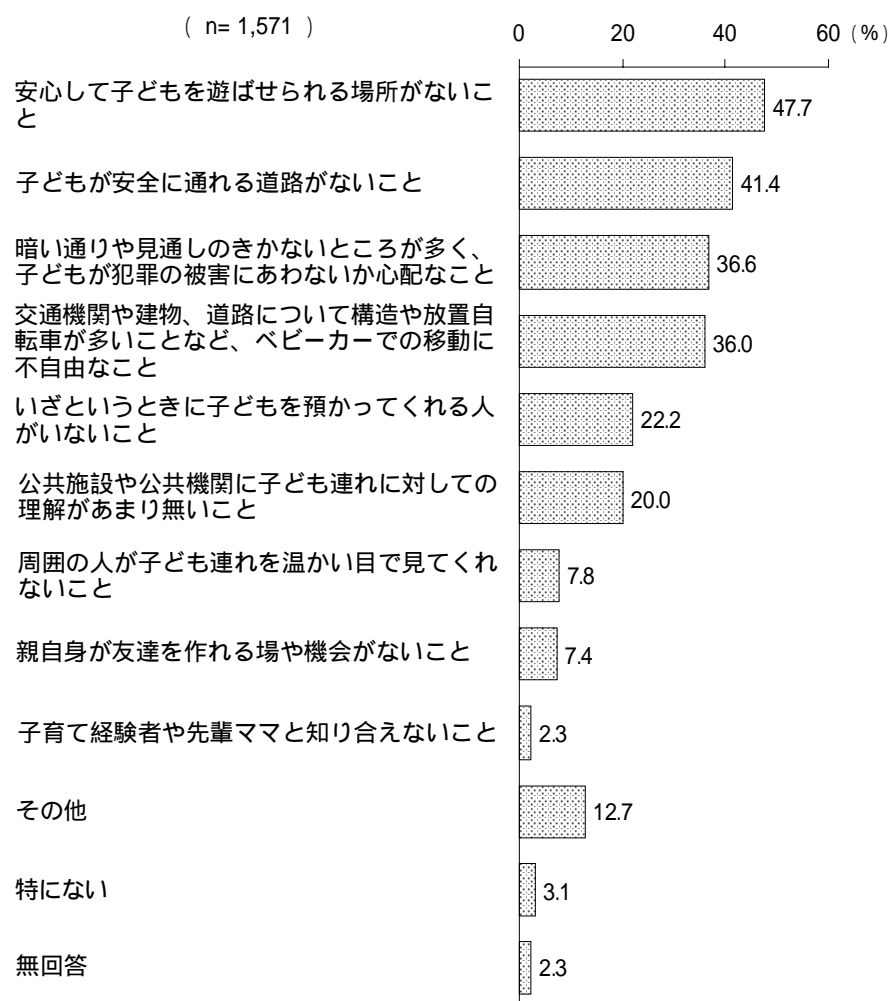
第5章 次世代育成支援（子育て支援）のあり方

5 - 1 子育てを行っていて特に困ること、困ったこと

Q15 子育てを行っていて、特に困ること、困ったことは次のうちどれですか。

(は3つまで)

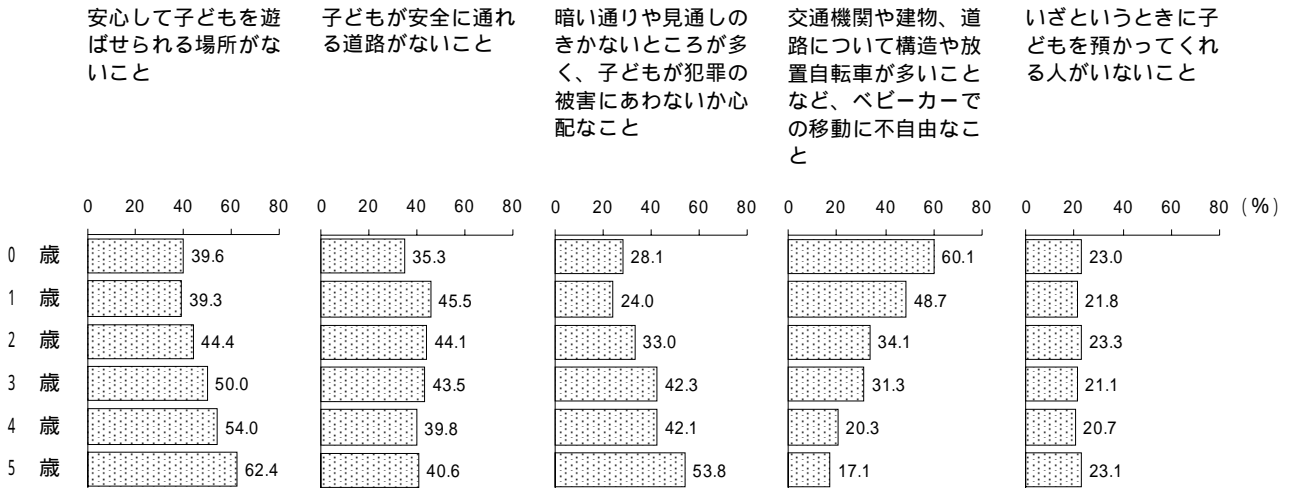
図5 - 1



子育てをしていて特に困っていることとしては、「安心して子どもを遊ばせられる場所がないこと」が47.7%で最も多く、以下「子どもが安全に通れる道路がないこと」(41.4%)、「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配なこと」(36.6%)の順で続いている。

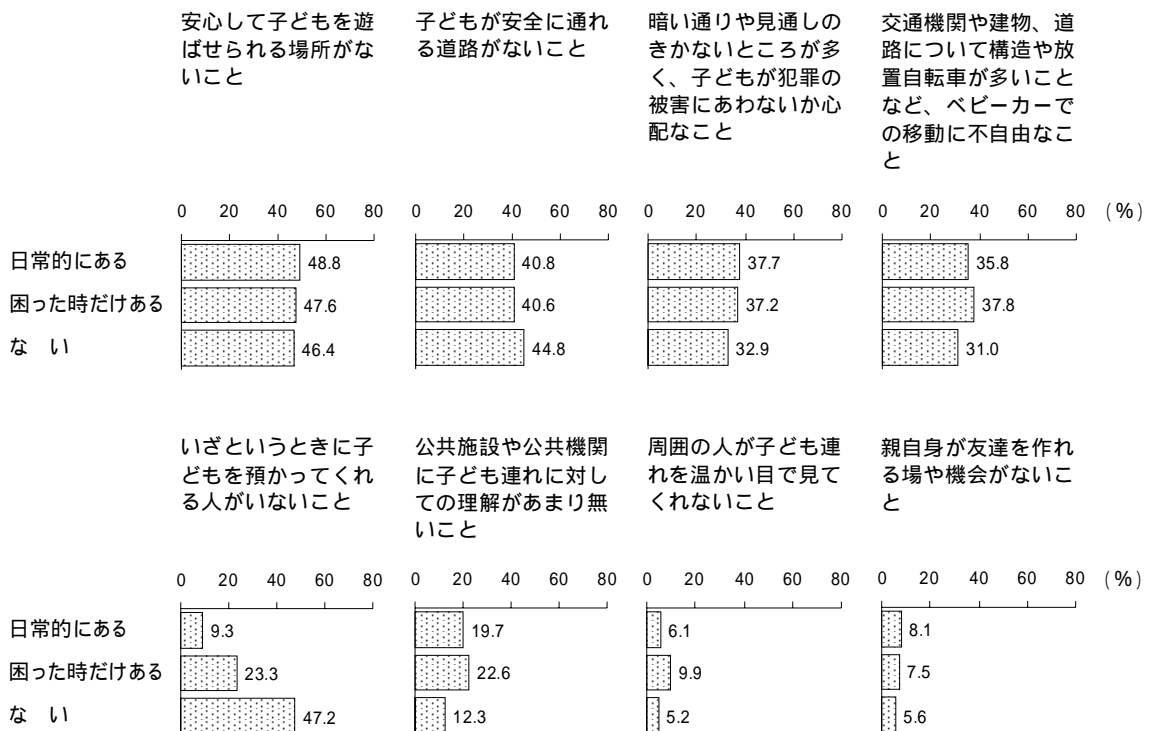
年齢別でみると、0歳では、「交通機関や建物、道路について構造や放置自転車が多いことなど、ベビーカーでの移動に不自由なこと」が60.1%と際立って多くなっている。一方、3歳以上になると、「安心して子どもを遊ばせられる場所がないこと」や「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配なこと」が増加する傾向がある。

図5 - 2 年齢別 子育てを行っていて特に困ること、困ったこと（上位5位）



祖父母や親族による子育ての支えの有無別でみると、子育ての支えがないという人では、「いざというときに子どもを預かってくれる人がいないこと」が47.2%と半数近くを占めているのが特徴的である。

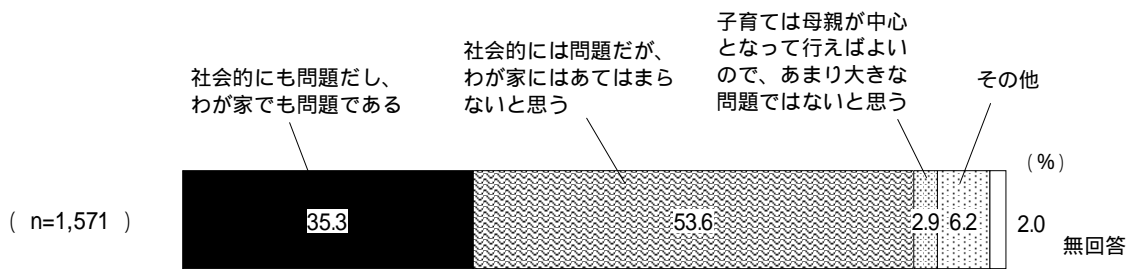
図5 - 3 子育ての支えの有無別 子育てを行っていて特に困ること、困ったこと（上位8位）



5 - 2 子育て中の家庭での父親不在について

Q16 - 1 近年、子育て中の家庭での父親不在（父親が、子育てにあまりかかわらない、かかわる時間がないこと）が問題となっていますが、このことについてどう思いますか。（ は1つ）

図5 - 4



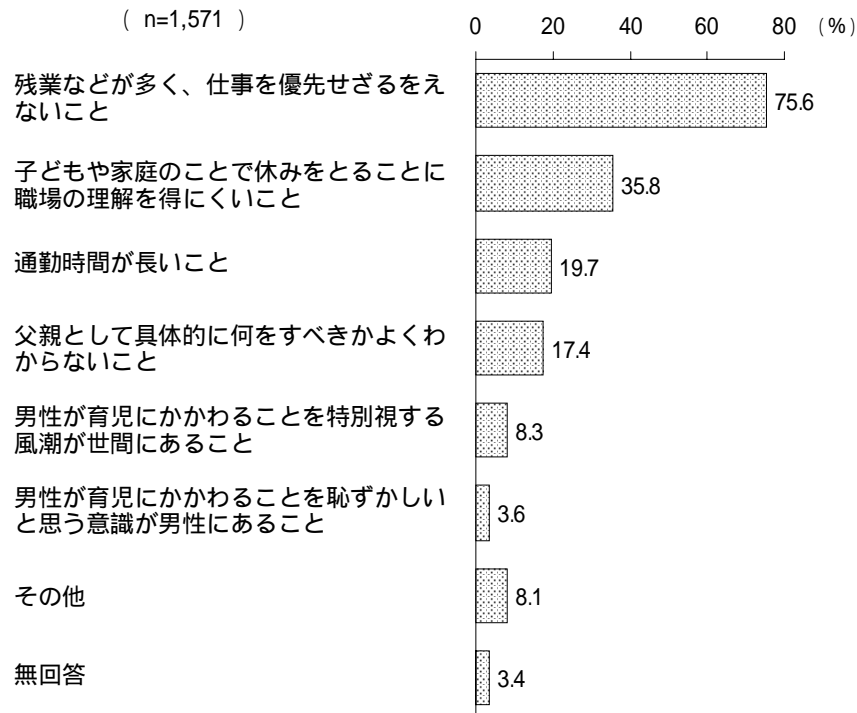
子育て家庭における父親不在という現象については、「社会的にも問題だし、わが家でも問題である」が35.3%を占めている。一方、「社会的には問題だが、わが家にはあてはまらないと思う」は53.6%と過半数を占めている。

なお、「子育ては母親が中心となって行えばよいので、あまり大きな問題ではないと思う」は2.9%と極めて少なくなっている。

5 - 3 父親が子育てにかかわりづらい理由

Q16-2 父親が子育てにかかわりづらいのは、どうしてだと思いますか。(は2つまで)

図5-5



父親が子育てにかかわりづらい理由としては、「残業などが多く、仕事を優先せざるをえないこと」(75.6%)が突出して多くなっている。また、「子どもや家庭のことで休みをとることに職場の理解を得にくいこと」(35.8%)、「通勤時間が長いこと」(19.7%)、「父親として具体的に何をすべきかよくわからないこと」(17.4%)となっている。